



まほでし・につき④

～7がつ・8がつ まとめつ～

謡犬 ヌネ

「まほでし・につき」の、ひとびと



☆ルメさん…

へっぽこすつとこな

魔法使い

魔法ハウス作りが夢

☆ダイモさん…

ルメさんの師匠

黒豆似

☆カオンくん…

気弱風味の獣人君

☆ヒュドールさん…

水や氷を想い嘆くめらんこりつく蛇巨人

☆ゲンマさん…

ヒュドールさんの弟子

十メうえに独自ゆるい語り方をする

そんなこんなで、

特訓かいっ!



※尚、日にちの表記が所々飛んでいる点の詳細は、奥付に記してあります。落丁ではありませんのでご安心をっ



頭がときどき つうんとします。

”そういうときは、どこかを空の浮島が通っているんだよ”

だれかに聞いた わくわくのかけら

かんのつよいこは、わかるんだって と昔からの言い伝えです。

先月のはじめのつうんは、カオンくんのことだったのかな？

では、今回は...？

”ルメさんどうしましたっ、5月びょうですかに？”

あらいつのまにかゲンマさんっ

う〜ん、もう7月だし、5月びょうはちがうかなあ

ワガハイ、またまた新たなお花出せるやうになっちゃいましたっ！と、お顔も満開だっ
南の島の、果物のやうな素敵な香りのお花が、玉すだれ状態！

未だ見ぬ孤島に住む亜種の花人さんに会ったら、これをみせて喜んでもらうですにと

おお〜っとほかでし・2たいでした。

ゲンマさんも、カオンくんも、成長しとるがね～

ワタもふんばらなくちゃ...この間の、魔法ハウス後の魔法は？という問いもそのままだしっ

ということで、今日はへきめんや床の質感を魔法で作ってみよう特訓、開始です!

(なんども使える魔法用木製白さいころ いくつか街で買ったのがやっと使えるっ)



(日々とつくんめにゆーっ)

・裏にして並べた数枚の魔法カードをひっくり返して、師匠のいうのを当てる

⇒魔法のカン磨き このカードは きてて並べるまで真っ白で、後に5種絵が出ます

・ほうき飛行訓練

⇒雨の日も風の日も行います (気象を5感+αでつかむため)

上下左右前後ナナメ・ゆっくり・高速・急旋回・さかさま回復・魔法使いつつ...

・魔法ハウス制作仕様魔法セットとつくん

⇒モノを出現・長時間浮遊・重量対応 だいじょうぶ時間、どんどん my記録更新中っ

・家庭科魔法

⇒ソロ魔法びとには基本らしき。料理は慣れつつたまにヘンに・洗濯OKなれどときにボロッ

お掃除はるんばっほい もさもさ物体を30秒出せます...が、30秒では終了せんわっ

+未だに師匠の頭上から熱塩や熱米が噴出します。米粒塩粒の収穫すぎるも上達!

あと、品質もだんだん上がっています。おおほかほかで甘いにおい、もくもくおいしいッ

母さんや兄さんはこういうとき・ああいうとき どうやってイマイチ？を上達してったのかな
離れてみると、あわわっ聞いとけばよかったよ なこと いっぱい

夢のカスタマイズ自在？魔法ハウス完成！まで、割と来たかな+まんだまだ要向上・要微調整

いちだんとびしてもうまくできん性分だし、ちっとんばいずつでも確実にふんばらんとね
山育ち魔法者だましい・だてじゃねいぞっ！

ということで、今日はブルーベリーヨーグルトにしますだっ



魔法薬や癒し、うらない、飛行、出現させる、召還におまじない、
物体をあやつる・話す、時間やお天気関係 などなど、魔法はホントウに多様わーるづ...

”魔法を使うときは、魔法元とよく話すんだぞ”
ダイモさんがよくおっしゃる言葉です。

はじめは、???でいっぱいでした。
ああいうことかな、いやこういうことかいな でもってホントウは、どれかな？

それが、道具とお話できる魔法を備えてから、だんだん分かってきました。

ワッが大鍋ぐる〜りしつつ唱えているときや、ほうき飛んでいるとき 浮遊するものを出す訓練を
しているときにも、それらのきもちがココに届くのですだ。

ばふばふ・まるまる・ちいちいした いろんなきもちが、ちがうよ／その調子っ／水のみたい〜
とっ

ホウキが寝ぼけているときもあるし、大鍋にひびが入ることも
事前に分かると安全だし、なにより道具さんたちの きもちぼいす なんだか謎の ほのぼのっ

加えて、カオンくんの変身のこと思い出されます。

もしかしたら、魔法元はワタのココにも おるかもしれない

ココのなかで、ワタの魔法をみつつ何サ、とか こうしてみれば？とか 良いんじゃない？とか

いろいろ空想しつつ、特訓しつつ、やっぱりごはんたべつつ！

どうも飛行のげんかいとっぱがねえ〜とでしずに話しかけると、ゲンマさんはお豆の原産地の
お話、カオンくんは何か言いかけてう〜ん...の、お顔

”ルメ、空とぶもんを何でも良くみてみな 鳥でも島でも魚やこうもり、木とかさ
あと魔法元にはよお〜く話せよ よお〜くな”

いろんなことばや気持ちがひしめく今のいろいろ、ワタの魔法元サにも届いとるかなっ？ですだ。



夜中に思い立って、下宿の地下工房でガ胡桃のクッキーを焼きました。
ガというのは、この実がある日空からぽかぽか降ってくる、木のみえない実ゆえです。
山の里時代も、降る度に作ってもらったカ
ざくぽりっ よしうんまいっ...そして、早朝

”ルメさん、ちょっとお話が...”
おやかオンくん、眠れなかったんかいね？

”僕 いっぺん 母さんに会おうかなと思って”
ああ 例の強者黒豹まだむサですなっ
たしか、群れの守り手として戦う日々で、あたしに勝てるようになるまで帰るんじゃない と

思えば勝つっているいろいろあるけど、カオンくんは確かに 何かわかったのかもしれない
ココの中の精霊・ローホさんを理解挑戦の過程で

それに、おかあさんが戦う日々とあっては、しんぱいだもんなあ
そっかあ 帰るのかあ

...

えっ？

”昨日夜中に下駄を直していたら、手が滑って獣人の指輪が指にはまっちゃって

せっけんで緩ませても外れないし...

そしたらそれ、獣人として成長したときにつける、遠くの仲間と話せるものらしくて
皆やったじゃねえか、お祝いだぜこりゃいつ帰るんだい？って...

母さんまで新しい服つくって待ってるぞなんてウキウキしてるし...

”

みるみるうはぁ～っどうしやう...と青ざめるカオンくん

でも、ブランさんも・ローホさんも、きみが頑張ってるなんとかしたんじゃないかい？

”でっでも、それはルメさんやゲンマ君たち皆が...”

でも、見出したのは、カオンくんだよ

嫌なもの一杯見て、でも旅でよかったことも見て、ブランさんといっしょに

いろんなものに出合った そのいろんな中で、

いやなものを撒き散らして笑う方にはいかなかった

目をそむけず、しっかり歩き、こわいものなんかよりずっとすごい変身能力を備えた

壊しかけても、あったかいものを見たいほうに歩き続けられた そりゃキミの力だよ

いやなものがどんなにいっぱいだって大きくたって、それらはその力には勝てない

よどみより もう早く走れるし、高く飛べるし、楽しいことを見つけられるし、上達もする

そして、くるしむもののココだって 知っているんだものねっ

唐草の模様の風呂敷にいろいろ皆で詰めて、クッキーもどかんと食料inして、

お見送りと、どきどき&こんどはうずうずの、旅立ち

とおざかる2本のしっぽと唐草もように、こみあげつつぶんぶん 手を振り続けました。



魔法とつくんの時はハイーッ！と気合まんてんでいるのですが、
ひとたび一休みとなると、ポカ〜ンとしてしまいます。

旅にはであい&わかれがつきもの、とはいいますが
どうにもビックラの昨日→今日だもんで...
ゲンマさんも、ネッコが生えさうな位ポカ〜ンとしております。
ハッとときおり おしりかくにん（根が生え始めていないか）

湖底の木漏れ日 きょうもころんころんと
なんてうとうと&ぼんやりしていたら、キュイーッ！という未知のお声

えっなに何？とわさわさしている腕には、見たことの無い小鳥がとまっていました。
カラスさんだったら、口の中の色をよく覚えている程とまらせていたけど...
水鳥でもないし、湖に棲むものでもないし

おまけにこのオカタ、とっても落ち着き払っていて なんだか鳥さんっぽくもない？
くるる くるる とねこ物の喉声みたいなふくみ鳴きしつつ

まるで青い氷で出来ているような目が 魔法の異彩をかもしだしています。

”そらを ごらん”

うう、あたまの魔法あんてながづうんとっ

しりもちをついたままになっているゲンマさんをそのままに、

夜空のやうな羽色の鳥さんは、鈴の音のやうな羽音をひびかせつつ 水の向こうへ去っていきま
した。



最近、ルメはくらげのやうであり、加えて暇さえあれば空を見に行く。
まあ、魔法あんでなに何か引っかかったのか、2本尻尾の旅人のことだろう。
カオンはまた、どこかしらで会う気がなんとなくする。

それに加え、むすめっこはココにくよくよエリアを開拓しつつある。
こうすればよかったのかな、でもそうとは限らないし、
でもどうしても、どうしても でもこの場合は ただそれだと...と

普段はそおいと決めていくが、そうやってそのときの答えまで考え抜くのも伸びる肥やしになるかもしれない。

どうしよう、のときこそグンと進むころあいだし、魔法上達のためのあれこれだし

そのための魔法は教えている（魔瓶から出してもらった条件だったしな...）
師匠はどのやうにお考えですか？と聞かれたら答えるが
いまいち、俺ももうひとつが、わからない。

普段ゴラァ！の教え手から、ゲンキが湧く一言なんぞ貰ったら、より気合が入るかもしれん。

いやしかし柄でもない、いらんか そんなものは？

”...一言もいいがルメは、見たところ 食べ物が嬉しいのではないかな
というより、魔法特訓後の栄養補給などは、この時期要るだろう”

あ～栄養ね、ふんふん...ぶっ倒れられても困るものな

”まあ、おまえは若干熱しやすいから、怒るでなく叱るべく叱る というのも肝心だよ
彼女も 我を忘れて噴火されても、それこそどうにもできんだらうから
いや、しかし...魔族である私たちが指導相談など、一体どうしたことだろうな.....”

ふふふって、俺はまじめにどうしてやりゃいいのか相談してるんだってっ

あ～あヒュドール、おまえは昔っから俺と正反対だもんなあ

”それなら、こういうのはどうだ

私が一週ルメに魔法を教え、おまえはその間うちのゲンマを教えるというのは？
かれらも要素の違う者から習うのならば 環境もかわるし 刺激になるかもしれん”

なにを...えっ

ふ～む、なんか それもそれかな？



只今、不思議な湖の底の、草のみに島の上の、石碑の中の楼閣に來ています。
ここは、めらんこりっく蛇巨人・ヒュドールさんのすみかです。

まほでし・しゃっふる学習週間やってみやう！ということで、今週の魔法・先生は蛇巨人さん。
どうぐを揃えて、一向に整わないまほでし髪をいっそわっかにして巻き、ほうきも調べて背負ってきました。

きちんとさんなオカタゆえ、普段のガッサー状態はNGかな？っと

おはようございます、1週、宜しくお願ひします！

”やあ、お早う。

緊張もあるかと思うが、新たな発見もまたあろう では、診断をはじめるよ”

腕なる四つの蛇あたまさんがた、ワッをぐるりとけんさ中...

赤さんはワッの魔法成分を読み取り、青さんは系統を判別

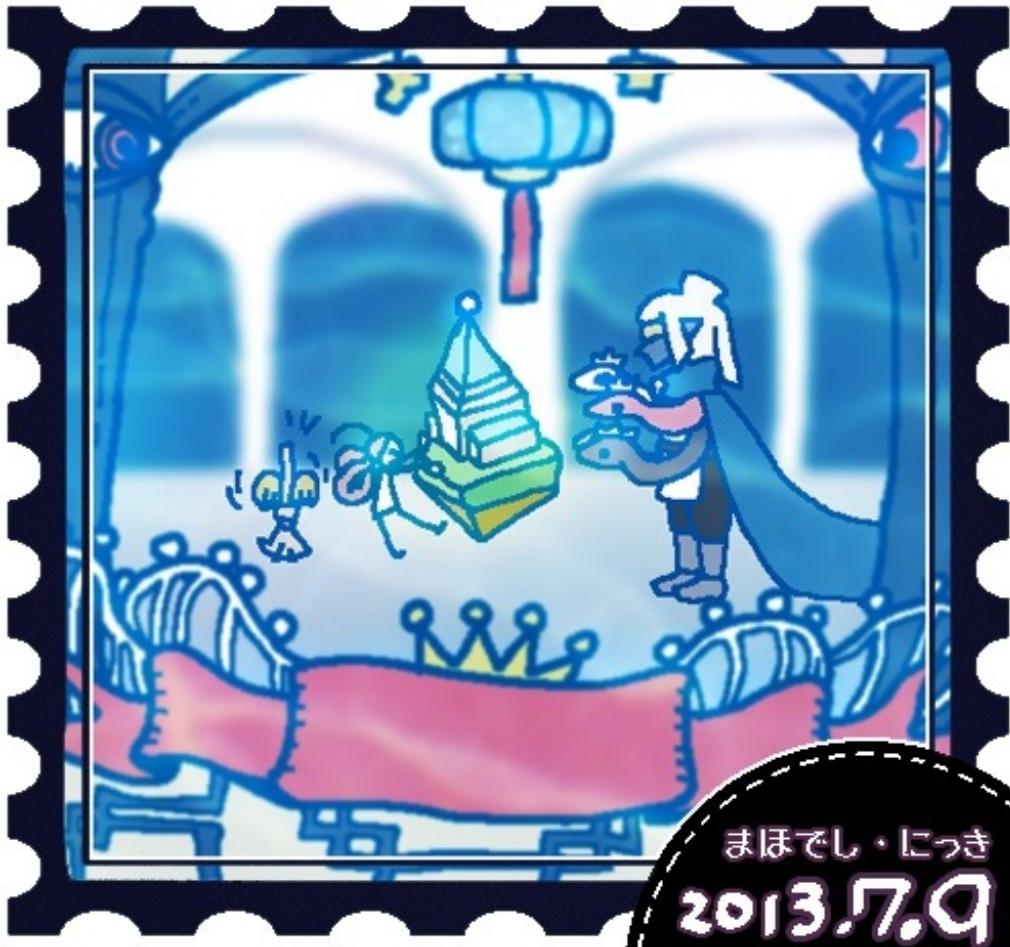
黒さんは魔法ハウス作りに向けての問題点を、白さんはキーとなる点を抽出

そして仕上げは、ヒュドール先生。

”ふ～む、きみは物体を混ぜ合わせて何かを作る要素が強い
さて系統だが、これは世界、属するもので様々だ。
きみの出身の里に根付いた魔法の分類基本でいくと...”
どこからかふゆうしてきた古い本をきゃっちし、頁をめくってらっさいます。
”そう...混ぜる要素が強いが、君の系統としては移動なんだ
ダイモを師として蓄積してきたぶんと、空の気がめぐっている
問題点とキーしては、素材と把握
丈夫かつ魔力をくわない動力、構成素材 それと立体の認識が苦手と見えた

魔法授業ではその辺りを見出していくこととしよう”

いやあ～魔法とつくんしたり、自主的にほうき飛行の訓練していてヨカッタッ
そしてワタは混ぜつついどうする人だったっほいのねっ
ようし、素材と立体認識（ホントウに苦手だっ）もふまえて、今週もふんばります！



只今、蛇巨人ヒュドールさんを先生として、魔法学習週間中です。
交換でダイモさんに教わっているはずの植物人ゲンマさんは、どんなかなっ

今日は水晶のやうな板を使って、建物の形を作ります。
この板は魔法を掛けている間だけ磁力のやうなものが働き、
最適なバランスでかっちりくっつきます。

1つ1つ組み合わせていき、浮島の上に浮かぶ家 の形を組んでいくのでありますが...
すこしでもフツと気がそれると、盛大にガラガラガッシャーんとやらかしてしまいます。

(ぼいんつ)

- ・飛行ハウスづくりにあう大きさの浮島を見つける
- ・造るハウスの形、つながりを3Dで覚える(カラフルな箱&対応するドアという記号で覚えるらしき)
- ・細かい質感や高度な強度を再現するには、より深い集中すいっちが要るらしき
(例)カオンくんは無心での宙返り&ローホさんの声をききわけること

ゲンマさんは記憶の写真を撮るやうに、植物の姿を瞬間的に強く思い起こす

ダイモさんは、からだじゅうを流れるマグマを超高温にするイメージで

ヒュドール先生は水の輪が暗闇の水面に広がりゆくイメージで

手作りの物とココと一きんぐしつたど 割と惜しいところまで組み立てられるので、その方法を中心にふんばっております。

いいぞルメそのままいけーっ！とか、よしもう一回はじめ！などのしゃうとはありませんが、ワタにねむるものを、その色かたちを引き出すルートで、一つ一つ発見しながら高めていけるやうに進ませてくださるのは、ヒュドール先生もダイモ師匠も ありがたいですだっ
的確にイカンぼいんつと光るぼいんつを示してもらえるのも、ファイすいっち

失敗のあれこれをしっかりスルドくココもって分析しつつ、突破でけさうな方法を探究
どうしやうのときの方法、また新たにひとつ 見つけましたっ



今日は、草花きのこいっぱいのみずみずしいお部屋で、ノートに記していく時間です。
久しぶりの、お勉強すたいるです、わが字のワ〜ィっぷりにアアアしております。
この古代文字ぽいもの、ヒュドール先生はちゃんとお読みになれるかなっ

(水の楼閣・資料りすと)

- ・「魔法建築 迷宮の歴史」ライデル・ロダム 著
- ・「空中諸島旅行記」 セーラー・ウステク著
- ・「魔女村の食文化」 階段坂下 玄米 著
- ・「プルス・ユル」 (古魔法語、作者不詳)
- ・「地方魔法語辞典 7」 (大体ワタシの出身の里辺りの、魔法語辞典です)

昔、よく暗唱させられたなあ、プルス・ユルの古文字表...

そのときはよく意味が分からなかったのですが、ひとつずつ自然のものをあらわしていました。

myほうきさんにつけたひらめき名前の人、ほんとうにいたんだなあ

空中諸島での双子冒険家さんたちのお話も、ハウスづくりアンテナにびびっとっ

くらげみたいな木が浮いてたりする...て、湖底にある木のなかまかな？

目からうろこぽい気分、メモしたり図をかいたり、もうれつにつ

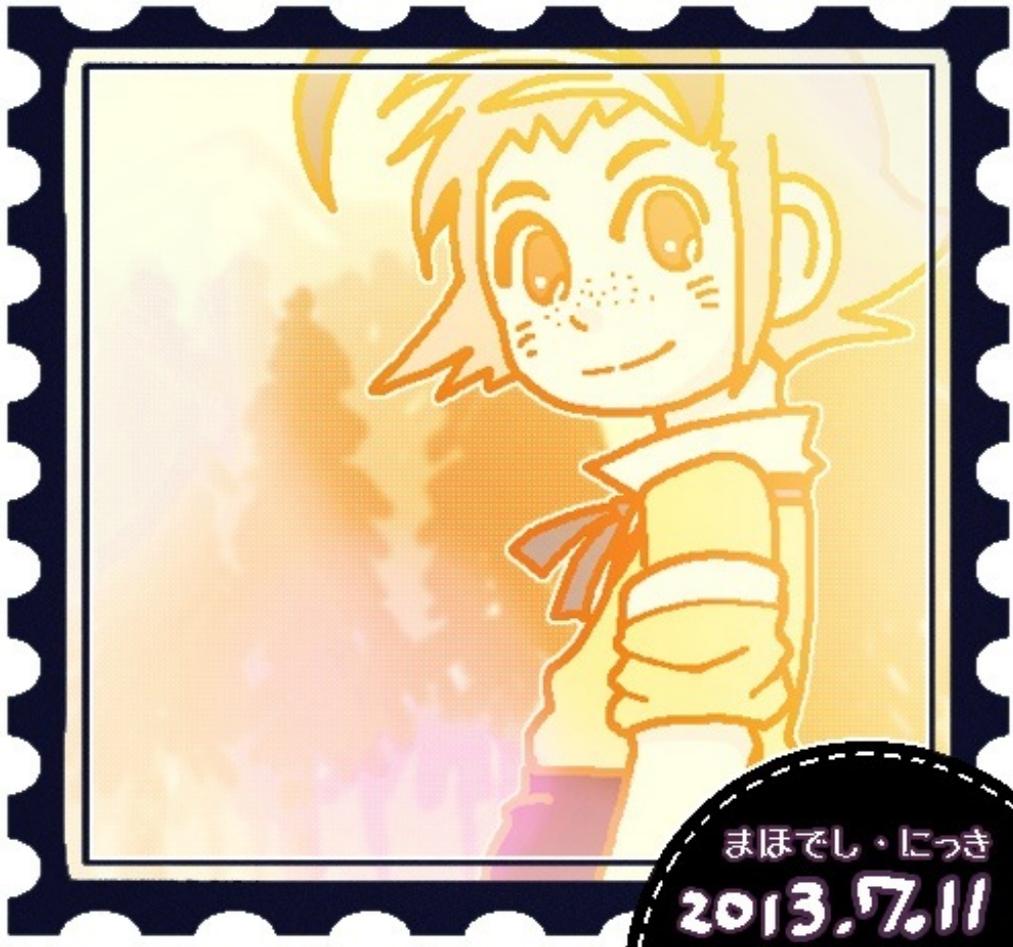
わかってくる&それがたまっていくって、なんかイッア

魔法をつかわないやうに、でもしっばいして+しなくても ひっぱたかれたり どやされたり
里にしばらく帰らない ほうきも調子が悪い、器用でもない
日々を変えてくため ㄨㄨでいるため お屋敷に住み込ませてくれた恩返しに むねはって里帰り
したいから 初おしごつゆえ
そんなへっぽこめいどㄨ時代も発見やおいしい物・楽しい事 すこしはあったけど つらかった

ことばにしつつ・ことばにならず でもべこべこになりながら・はねのけながら歩いて
ㄨㄨ ここまで 色んなものに出会いながら 憧れるもののエリアまで やっと来られたんだなあ
でも、まだまだだ！

もっともっと魔法うまくなって、飛行ハウスだつてたてて、魔法のおみせなんかもしつつ、
ぶつとびながら帰宅しちゃう！母さん達、びっくりするぞなっ
それにカオンくんたち獣ㄨにもいっぱい会いたいし、魔域も、島も、不思議な楽団にも...

あら、オヤツのふんわりケーキとお茶（レモンの香りのハーブ入り、疲労回復）？
先生、こんな素敵なお部屋の座学たいむ、右手以外は疲れた気しないですがいな！
（ゲンマさん、授業毎回これ頂けるのねっ）
でもモチロン、いただきますッ



きょうは、家族のとくいな魔法をノートにメモしています。

秘するも術のうちの魔法の世界だけでも、つながり・とくしょく 参考になるやもっ？

(イユッグけ(うち) + ヴァトけの魔法(分かる範囲で))

- ・父方おじいちゃん(シシル) ...魔法で楽器をあやつる 子供時代から旅劇楽団の一員だった
- ・父方おばあちゃん(エンマ) ...薬草づくりや、動物をみてのお天気あて、農業予報は里二番
- ・母方おじいちゃん(ドレ) ...魔法技術をつかった機械の研究? 会ったことはなかったです
- ・母方おばあちゃん(メリサ) ...癒したり、治したりが得意だったらしき
- ・父さん (ミンス) ...魔法楽器を操ったり、作ったり 町にお店を出してます
- ・母さん (イベル) ...今は父さんのお店に雑貨エリアを作り、一緒に売ってます
- ・兄さん (ルスタ) ...鳥がだいすき 旅に出たまま(便りは時々)

父さん母さんは、いつ兄さんが帰ってもいいやうに、ごはんを用意しているらしき

いつもぼ〜っと窓辺で鳥さんとじゃれつつ、何かを考えていた兄さん

”あのさ、おれ鳥になってくるね〜 いってきまあす”

と、ホウキに乗ってもい〜んと出かけていったきり。

お手紙は度々とどいていて、どうやら鳥にはなれたようです（兄さんどんな旅をっ）

いろんなおもかげや軌道のあいまを、ワツ・ルメも 刻々と参りますだ！
今までのピンポイントにかえりみる、のも 習得してゆく道なのだナ



ヒュドールさんが、魔法授業のつうしんぼをダイモさんにと持たせてくれました。

(その、なかみ)

親愛でないダイモへ

「魔法使いルメのステータス」

- ・属性⇒火と風（偶然なめぐり合わせにしては、中々良い師弟マッチングやもしれん）
- ・系統⇒移動
- ・要素⇒ものとものを混ぜ合わせる

- ・力 ⇒だいたい人並み
- ・早さ⇒やや難有り
- ・体力⇒たくましいと言っても過言でない持久力、回復力
- ・知力⇒知力は今後増えていくステータスだろう 集中力のスイッチ要
- ・運 ⇒良くも悪くも船尾波のごとし

「わが水の楼閣にて行った授業」

- ・水晶版を用いて、立体建築物モデル作成（魔法使用時のみ接着）⇒要集中！
- ・座学、めざす魔法習得・資料集中⇒菓子と茶 ノートは熱血かつ色鮮やかにまとまっていた
- ・座学、家族の得意な魔法 のメモ⇒中々の気になる者ぞろい、思いがにじんでいる

尚、昼食とおやつ、茶などをはさみ、飛行訓練、浮かぶ建築組み合わせ訓練を続けた。
パズルが気になる様子ゆえ 頭の体操に、全て組むと水晶球になるものをさずける。
これで立体認識も向上するかもしれん。

＋ルメのミヨナところがお前に似ており、昔のことをたびたび思い出した。

（また、定時になると夜空色の小鳥がやってきた。かのものはただの鳥ではなからう）

かわりものの弟子達、互いに教え、見守ろう。

ヒュドール

おはあ、ひさしぶりの、つうしんぼっ...！

ヒュドール先生、水晶球っぽいパズル アリガトウございます！

毎日組むべっ

おや、ダイモさん 何やらニヒルなほほえみ うかべておるカァ～



このところ、ワタとゲンマさんのまほでし達は、魔法せんせいをシャッフルしていました。
めらんこりっく蛇巨人・ヒュドールさんと、
内なるマグマと情熱の黒豆的小人・ダイモさん

どちらも、きみょうでのびのびな オカタガタです。

おや、あれはっ シャッふる授業間も・後も会っていなかった ゲンマさん？

”フハハハ ルメさんじゃねいか

ワガハイ...じゃない おれはいまモウレツにジョロキアしているっ
甘かないぜ、トウガラシってのはよう”

バ〜イといって、去っていきました。

ゲンマさん、また新たな要素をそなえてるなあ...ダイモさん 何をおしえたんだろかっ

...と思って聞いたら、むしろダイモさんがお悩み中でした。

”ゲンマ 熱心なやつだが、アレは...？

なあルメよ、おれって あんなかんじに見える？”

んん～、ちがうやうな、冴ッそうかなどうかな なやうな...

そんなこんなで、またダイモさんに教わる日々に、戻ります！



ゲンマさんが、育てているお花の鉢植えを外に出していました。
なんでも、ちよくしゃは苦手だけど、日光は好きな種類らしきっ

”な～んかね、変化がでてきたのですに～

上に上にと 伸びだしてきて...

辞典だと、そうなる個体は 飛ぶやうになるナンテっ！”

フッフ～とわくわくしながら、ぞうさんのジョウロで水まきの、ゲンマさん

湖底で水まきなんて 改めて不思議なところだなあ

と思いつつ、あたまのどこかで 何か光りました。

空、とり、飛行...

ん～？

ワッも、カスタマイズ自在飛行魔法ハウスつくったら、飛ぶくらげの木ヲを見たいワ
古樹くらいになられた姿なんて、素敵そうですワ

こぼれた水の玉のが、細かくしゅろしゅろ 照り始めた水面へと あがっていきました。



そういえば、ワタシのほうきはその昔空飛ぶおうまさんが落下したあと生えてきた木で出来ています。

大小の飛行島や空飛ぶ木のことを、知っているかな？

手作りの物体とお話がでける魔法で、ほうきに聞いてみました。

(ろぐ)

- ・ワタシヨ ハエタタキニ ツカワナイデ クダサイ
- ・ハウキハ アンゼンソウジュウ シテネ
- ・オマモリカザリ ツケテクレタ アリガトウ
- ・ワタシ ソラトブキ シツテマス！
- ・オコメ モウスクナイ
- ・ワタシ キ ニ ナルマエ オオムカシ ハネウマ デシタ

えっほうきさん、大昔羽うまさんだったのっどんな色？

ふんふん、小柄でからだに斑点模様のある白、たてがみと尾が淡い黄、翼は桃色となっ
ああお米、そうだったそうだった

…ん、空飛ぶ木、見たことあるの？

ほおほお、すんごくでっかいのもあるし・傘くらいのもかあ

お、種？

育つ一帯が、飛行島化？

．．．

．．．

．．．

おおっと！

よっよしよし、まずは落ち着こう

してその、空飛ぶ木の種ってどうすれば

ほうき杓はとつぜん力が抜けたやうにすう～と草のうえに降り、まどろむやうな様子

魔法たいむ、過ぎてしまったかっ

ねいきをたてるほうき杓をなでつつ、魔法特訓の休憩をしつつ、ココでは羽仔うまさんが飛び回り
始めました。



ワタシの夢の、カスタマイズ自在飛行魔法ハウスの予定外観は、こんなかんじです。

外からだと、ちいさく・しんぷる

でも中には様々な部屋があり、飛行生活にいろどりがっ

(いろんな部屋)

- ・ 割れない、凍らない 大窓でわんだふる借景な部屋
- ・ 草花まみれの、りらくする一む (水循環しすてむもしっかり)
- ・ 魔法道具収納兼制作工房
- ・ 台所は、里のもの (を機能はデラックスにっ)
- ・ 奇妙なモノいっぱい、趣味部屋
- ・ 旅のおもいで物体を飾っていく部屋
- ・ 湖底のやうにみずみずしく りらくすでける部屋
- ・ 魔法屋すぺーす (ならべたり、売ったり、買ったりっ)

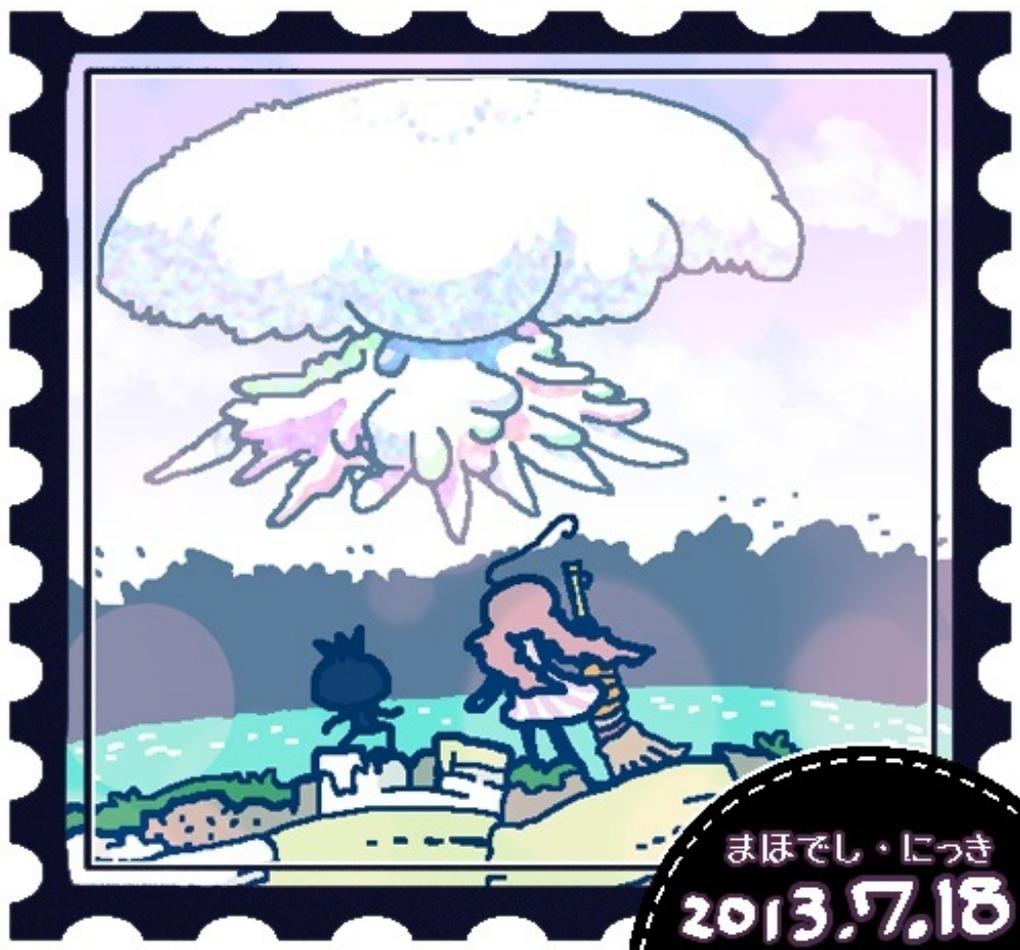
お部屋がなかったり屋根裏倉庫だったのが、チャントできれば、ななLDK (店部分含む) っ!

ただし、ちゃんと できれば

つくるときは始めは一気に・細部は根気強く 魔法をかけてゆかねばなりません。
迷宮化や未知のリスクもありますが、てやんでっ

とんでく・おかしな・すてきな・いばしよのきよてん

つくりたくて、きょうも特訓の休憩時間に ほうきで空の風のなかです。



起きたら、さら～とさす水ごしの光の向こうから、聞き慣れない音がしました。
ぱりとんぼいすの歌のやうな、大きな機械がうごいているやうな、そんな音

頭の魔法アンテナじゅうに、つうんを通り越してびかびかすばーく しているやうです。

急いでバタバタほうきをひつつかみ、髪をもさもさ結び、若干ヨレた魔法服を着込み
ついでにダイモさんもひつつかんで ごぼわ～っと急速浮上！

すきっぱらで目をこらし、明けていく夏の朝の空をみまわすと...

虹色の光沢の白い葉をめいっぱい茂らせた空飛ぶ巨木が、ふしぎな威風でやってきていました。



空を飛ぶ木は、陽の光をはんしゃしてきらっきらと輝いています。

おまけに、複雑な風の流れてできていて、私はあっちゃこっちゃにぶつかりまくりっ

でもほうき飛行特訓が功を奏したのか、少しずつ高度をあげていけます。

(表面は水っぽくつるつるで、登れないっ)

この中のどこかに、飛行島を作れる「種」があるのねっ

”ルメ、姿勢を低く飛べ 風の合間をついていくんだっ”

ダイモさん、ありがとう！ムズとひつつかんで来ちゃったけんどもっ

べっこんぼっこんぶつかりつつ、はねとばされつつ、まだまだ飛びますぞっ！

ぶへほっ



ほうきでへとへと飛ぶうちに、あちこちで小動物が巣を作っている枝まで登ってきました。
ちょうど手もしびれてきたし、あたまもぼんやり...ゆえ、じかに登っていくことにっ

おお、なんだか宇宙っぽくもある白いやどりぎ いっぱい
きのこも そこここで、ゲンキです。

りすㄅ+とかげㄅのMIXなものが 真珠のやうな虫さんをくわえ、警戒しつつじっと見えています。
おやっ、舌をちろちろ出しつつ見下ろしているのは、光る目と固い甲をもつへびㄅ
どちらも、昔みた動物図鑑で「古代のせいぶつ」として載っていたすがた

長生きな空飛ぶ木にのっかったまま、ずうっといきしにしつつ 飛んでいたんだか
この上には、なにがあるのかいね？

ぜいぜいいつつ、休憩であんこもち&えなじー麦茶を食べつつ飲みつつ、
カスタマイズ自在まじかる飛行ハウス・方法探求は まだまだ続きますだっ



よっこらどっこら 巨大な空飛ぶ木をのぼっていったら、大きなうろがありました。

色とりどりの水面が硝子のやうにはまっけて、そうっと触れたら 吸収されっ
ごろりんと出た先は、木の床・木の壁の筒型のほーるでした。

その真ん中で、天井とつながった屋根をもつ古い小屋のやうなものが、目を閉じて眠っていま
した。

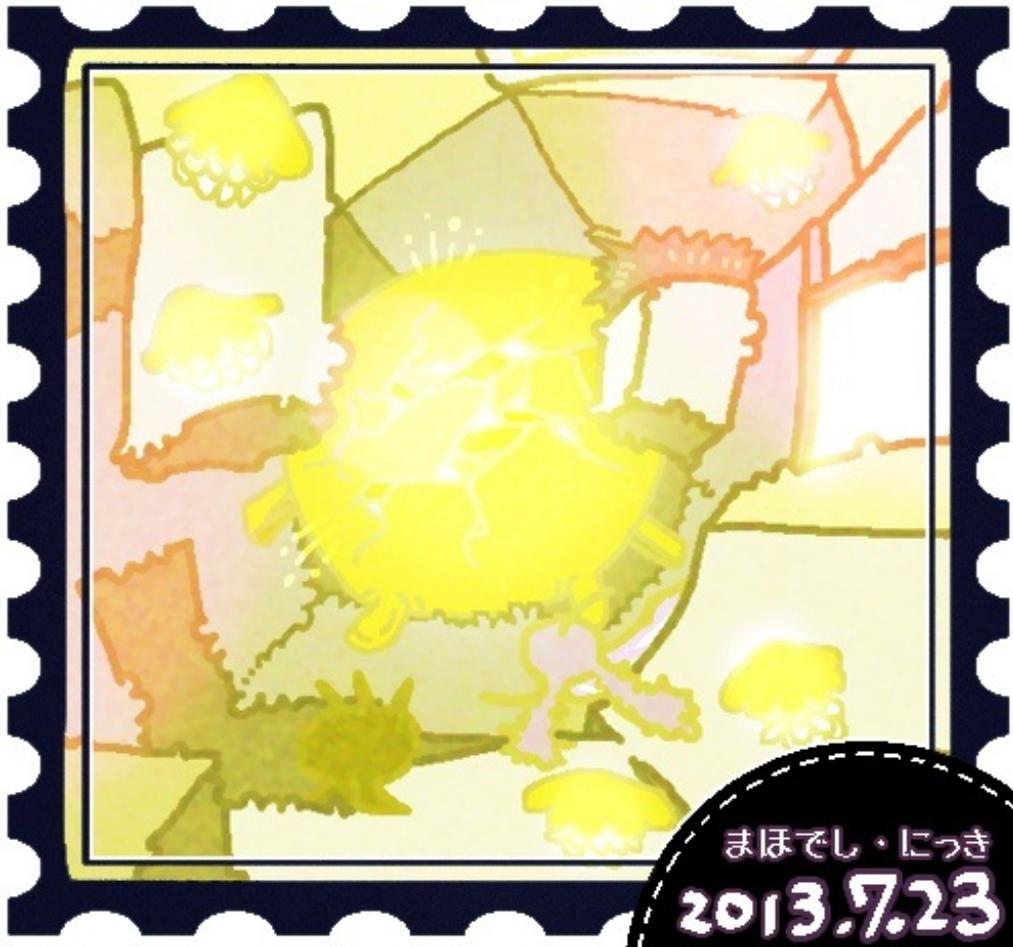
大きな生物と すきまかぜの音が まざったやうな 大小の波めいた ねいき
ほーるのなかは、それと不規則に水がとおっていくおとと ドコカから小鳥さんの声
それ以外、音がしません。

あんなにぼうぼうとなっていた 高い空の風の音も

そして、小屋さんにまた、大きなうろ

おやっ この声、最近度々飛んできていた 夜空色の小鳥さんの声かなっ？

”そのなか とぶきのなか きみはきに きにいられるかな だといひナア”



うろのなかのうろ のなかは、こんなかんじでした。

ときおりぽこん、と脈をうってうごく、とてもまぶしいキンイロのおおきなまるいかたち
その間隔は、とってもゆったりしています。

そして、ひびわれ

それすらもきりきりした光のこなが漂っていて きれいなのですが、
その表面は 大小のひびわれでいっぱいでした。

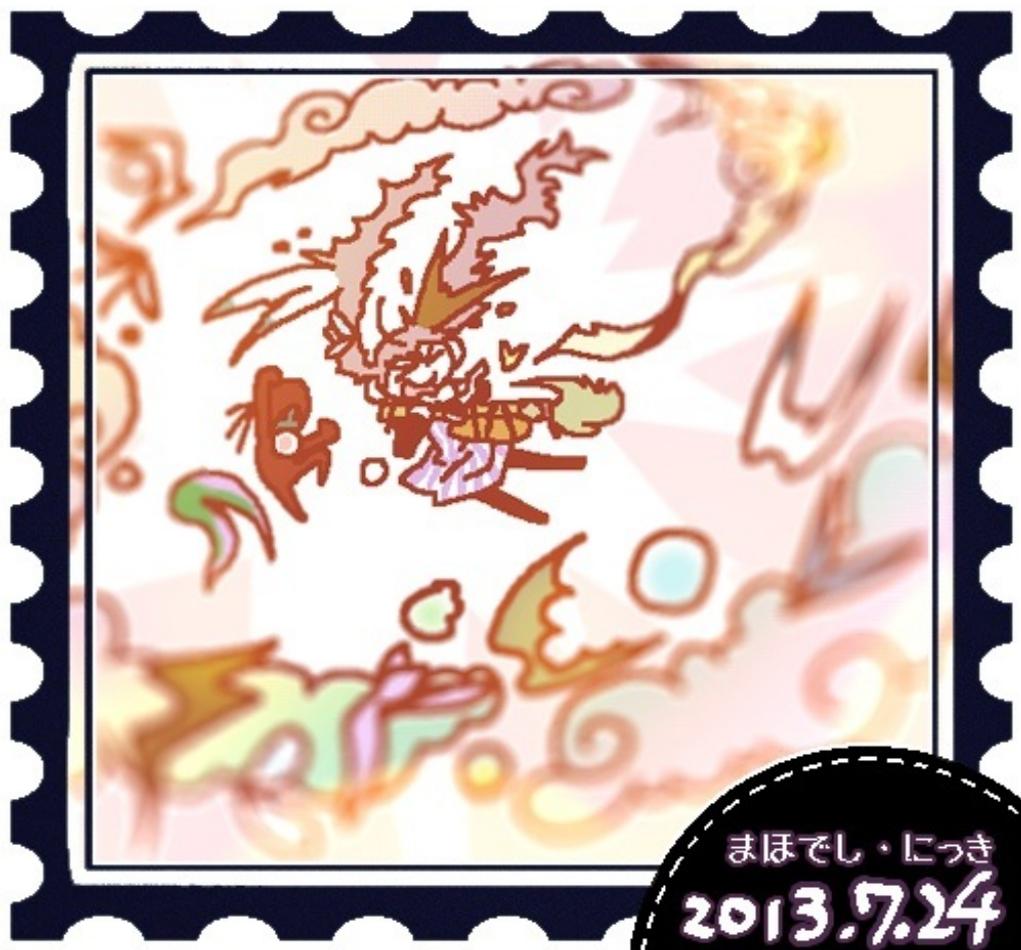
ダイモさん、ずうっと じいっと 放たれるキンイロの光を みつめているなあ

ワッなんかより遥かに巨大で、むかしからあって、空まで飛んでいて
色んな生き物が住んでいる、古樹
そのながいながいいのちは、ちょっとひと休みの時間にむかっているようです。

ワッのところきた小鳥さんは、空をごらん といった
きに きにいられたら とも

ここにあるという 空を飛ぶ木の種
植わって育つ一帯が飛行島になるという 種

それは、ワツがすまう以上に、新しい空飛ぶ木さんを守ったり、いっしょに育ったり
そういうことに なるのかなっ？



ぽろっ、と、また きんいろのかけらが かけて
思わず、ワツは空飛ぶ木のコア的なもののかけらをきゃっちしました。
おお、植物さんも 体温調節しとる
ほのかにほおん、とぬくもっています。

すると、遠くのしほう・はっぼうから 何かの群れが飛んできました。
鋭く風を切ってくる音のしょうたいは、大小数え切れない、羽だけの群れ
むしの・とりの・そらゆくさかなの・ひこうきの・まったくみちの

空飛ぶ木さんの体内にしんにゆうした異物たち、ということで、
お守り役の羽めいつさんがたがコーラッしにきたのかな？

...ってアイタタタ、べしべしぶつつからないで～
ダイモさんは屈強さうな羽ととっくみあってるしっ
いやいやダイモさん、私たち
空飛ぶ木さんをお願いして、その種を分けてもらいに来たんよっ

てのひら2枚でギュッと守ったコアのかけらをふ～っとみてみたら、かすかに浮かんでいました。

ぶつかるたびに分かれてまた小さな羽になり またぶつかってくるのをちょっとまってねしつつ、それをひび割れのもとに はめこみました。

パズルは苦手ですが、わかりやすい欠片から よいしょよいしょと

そうするうちに、羽さんたちは けむりのやうに消えていきました。

それと同時に、ワタとダイモさんはそれぞれ突然倒れ、しばし眠り込んでしまいました。

(あれまゝ...そういへば兄さん、どこ旅してるんだろなあ)

しらすのうちに、ココで空想しながら



何やらはわわと倒れて そのあと
気付いたら、私たちがいる空飛ぶ木さんの内部は ずいぶん縮んでいました。

おやあと目をこすりつつ、ワツとダイモさんが起き上がると
そこには、若干人の姿のやうに変わった 夜空色の小鳥さん

きみ、空飛ぶ木さんの 住人だったんだねっ

”あのさあ、ルーまだ気付かないか？”

んえ？

ワツをルーときまぐれに呼ぶ人、里のひとしかいないけんども...

”おれだよ、おれおれ”

ええっ、なんだか これって...

”おいおい忘れたの～？

おれだよ、あんたの兄さんだよ”

だ...えっあれっ？

あららら、よくみると！

ダイモさん、脱力して線のやうな目で横たわりました。

”あのね、やっとうりになって飛んでたら、木が飛んでたのね
生物いっぱいいるし、だだっ広いってんで、おれも巣をかけたのさ
そうしたら、この木さん そろそろ ときだと いうから...

種を託せる者はいないかな～って飛び回って探してたんだ
亡き翼たちの憩うところだし、古生物だってたくさん棲んでるし、おれの巣に関わることでもあ
るしさ

そしたら湖でルーがなんだかしょんぼりしてるの見えて
木さんがたに頼んだら、その者が中心部までたどり着き、かつ破壊する者でなければいいって

いや～へたすりゃ化石ニンゲンか シャグマアミガサタケ人の仲間入りだったよほんとにつ
でも あのみにつこが泣かないでここまで来れたんだ、なんとかでき得ると思う
なにとぞ頼むよ、ルー”

ぴよぴよ可愛らしい声になった兄さん、およそ11行ぶんで経緯を伝えてくれました。

手の羽から受け取ったキンイロのまるちいさなせいぶつ、もしかしてこのこが たねだろかっ？



”ルメ、げんきでな”

兄さんは、どうするの

これからこの木さん、とき なんだよね？

”多分古生物ご一行は、これからはじめて木を旅立つんだ

きっと姿も変わって、最新の生き物になっていくかもね

皆さんが旅立ち終わって、木が 何処でもない砂の上にかげらで降りて

また小さい空飛ぶ木になって飛び立ったら おれもまた旅を始めるよ

里には一回帰るし。母さんビックリするねえ～

ルーの話も しとくから”

夕焼けのそらのなか 冷たくなり始めた風の中

どこまでも 飛んで行きさうな空飛ぶ木さんは、星星が沈み・また新たな星がうまれるという

どこでもない砂洲のうえに いつかかけらとなって ころんと降りるさうです。

じゃあな～がわりの ぴいっ！という声を叩に、

去り行くふしぎな威風が見えなくなるまで、見えなくなっても、おおいと手を振っていました。



やっと湖まで帰ってきたら、ゲンマさんが半ば砂に根を下ろしたまま立体睡眠していました。慌てて起こして、ねっこもそろそろとひきぬいてっ（体内に収納されたっ）

”ナントッルメさん空飛ぶ木に登ったのねーっですに！

いいカワガハイもひつつかんで行って下さればもうウハウハでしたがしかし...
色は？樹形は・あっあと構造や着生植物、菌類や苔類ナドどんなでしたっ？

あ、あとずっと待ってたんですからにおかえんなさーい！”

ほ～い、ただいま～

と、覚えていることを大体話し終える位のとときに、まほでし荘に着きました。
あれ、あけた間に、ダイモさんハウスに みずねずみサガタが住んでらっしゃる...

さあ～て、掃除して、マドあけて空気めぐらして、空飛ぶ木さんの小屋もこしらえて、
必要な環境や日光・水の量も しらべて...

をしつつ、一同ごはん食べてちと休養しようっ



さっぱりしてきた&どんがらお洗濯+魔法かけました（しっばい化せんでねっ）！

さっぱりついでに、ねぎだくの素うどんをいただきました。

畑でげんきにぐんぐん伸びたねぎと、こむぎと、コーンと、お豆と、かつおさんから

おりゃあっとすすするワタは今 いきるもとをカッテにもらっとるのねっ

幾日も浴びたぶんの陽の光と、雨や雪と、かつて泳いだ大海のかけらも いっしょに

お料理というのも、一種の魔法みたいだなあ

ワタの胃は、いまや大慌て

細胞さんも、大急ぎでなにかを吸収したり、運んだり しているんだ

空飛ぶ木の種さんは、ワタのとなりでつつつ、と一本ずつうどんをすすっています。

あ、キミもそういう栄養 吸収するんだねえ

しっかりたべて、でっかい木になって ひろびろと空旅しようっ！



種さんのこと、植物 半マスター・ゲンマさんに聞いたりなどして、調べました。

(空飛ぶ木さんの、種のこと)

- ・色々食べ、良く動く
- ・印象的な土地をみつけると、なじむまで土に埋まる
- ・なじんだら 芽をだして生長し、ある程度の大きさになったら浮遊を始める
- ・気流にのりつつ、おりつつ さらに生長しながら空を飛び続ける
- ・ときが近づくと、木に暮らしていたものは新たな姿になって飛び立ち、全て旅立つと木は結晶のような形で分解をはじめ、どこでもない砂の上におりる
- ・そのあとは確認されていないが、「無限樹」の異名もあるため、何らかの形で再生し、生長を繰り返すと考えられる
- ・くらげに似た姿であり、水気を大変よく好む
- ・日光は活動の基本 ただし強すぎる日差しには注意のこと

そうなのかあ〜...

なんだか里でエキナセアやローズマリー、あさがおなどを育ててたのを思い出しました。

咲いたっのを見ると、ほんとうにおおおっ...!とっ

お花の記述がなかったけども、なにか咲くかな?

また、砂の上におりたあとの記述也没有せん。

鳥になりに行くから～、とって、ほんとうに鳥になった兄さん
空飛ぶ木さんを見届けるってっていたけど、大丈夫かな？

いろいろ思いつつ、空飛ぶ木さんのよい座り場を作っています。

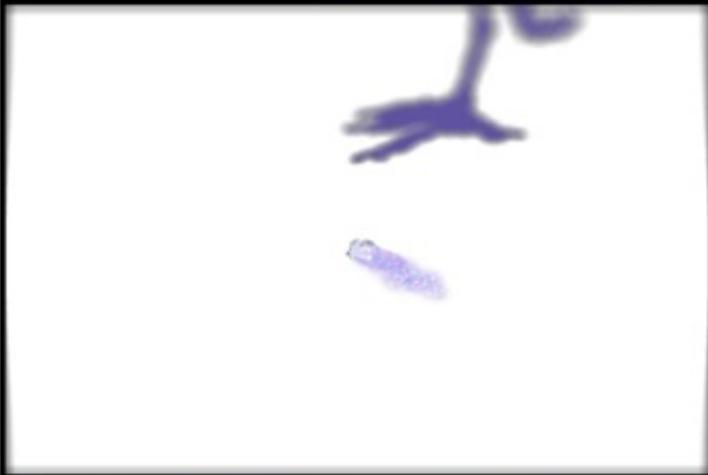
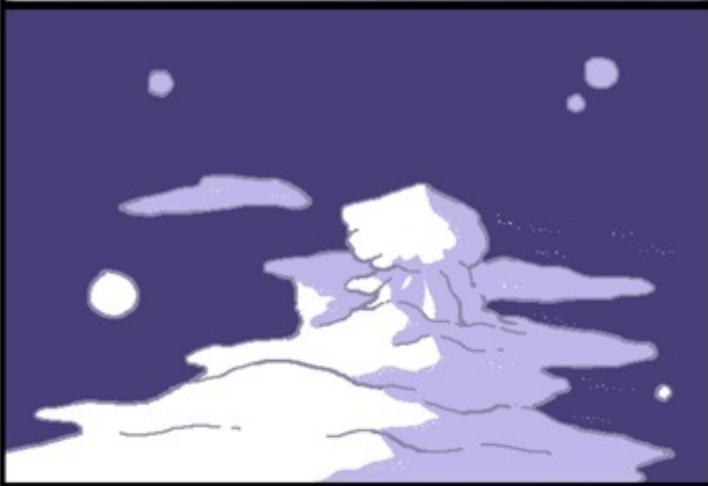
さあ、空飛ぶカスタマイズ自在魔法ハウス、作り始めるかなっ

まほでしーにっき

7月のまとめ

言葉
コネ

それから、
空を飛ぶ木は
流れながれて…



なにやら新たに
はじまったらしき。





空飛ぶカスタマイズ自在魔法ハウスづくり、スタート！
まずはべろ〜んと でっかい立方体をつくります。

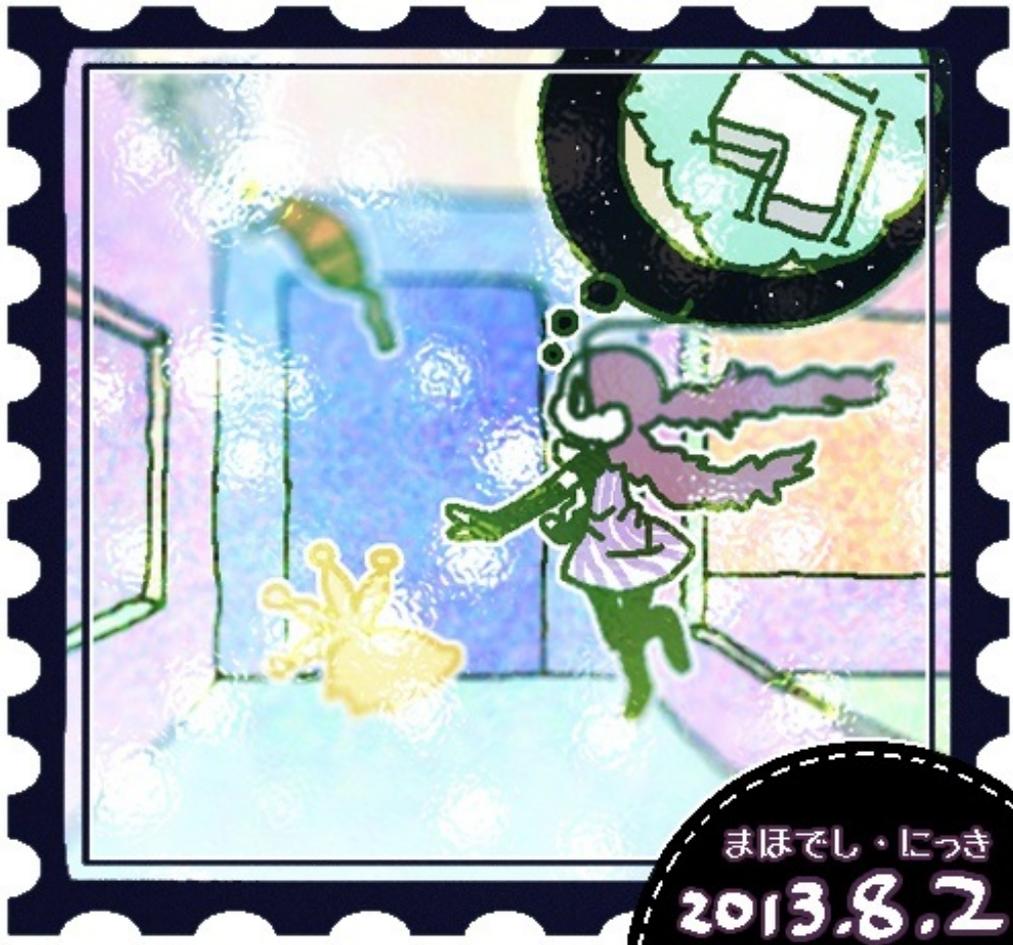
魔法工作用の木のキューブ、残っててヨウツツ
でもひろがっているのは 薄いぶどうゼリーのやうなぷるぷる質感です。

これをも〜っとひろげて、ハウスの土台と同じくらいにして、
中の各おへやを めいきん してゆきます。

おわっと 今朝ごはん少なめだったからいきなりお腹鳴ってるし...

”ルメぬかるなよっ しっかりハウスたててみせるんだぞーっ”
ダイモさん、ゲンマさんに羽交い絞めにされつつ（おしずかにですにーっと）
ひかえめにガッツ送って下さってるわっ

ようし、ふんばるかんね！



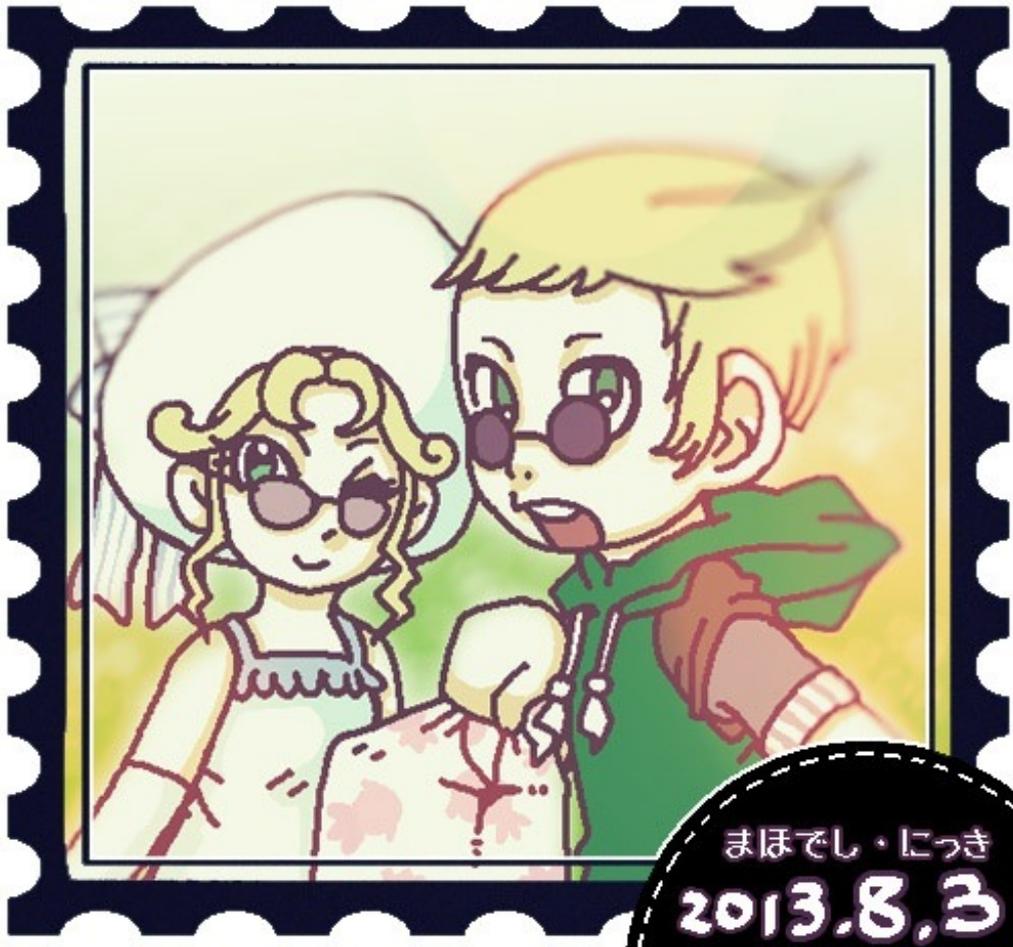
土台ぐらいに広げた、魔法ハウスのもと
部屋の区切りや窓・扉の大まかな位置を記していきます。

空飛ぶ木の種さんは、尻尾？をぴゃーっと広げて月面じゃんぷしつつ とびまわっています。
壁のモトや床のモトにごつつんしないやうにねっ

まっさらなしかくをみていると、
あれを置きたい、こっちの色はこうしたいかと いろいろでてくるくるっ
メモしつつ、「どうせん」も 考えなくてはっ

おや、ほうきさんが呼んどる

んん、だれか訪問者さんが いらしてるって？



懐かしいお名前の名乗りをきいて、魔法ハウスを作りながらお話をしました。
たえず魔法をかけ続けたいといけん段階ゆえ、かんにんっ

来てくれたのは、ワタがろけっと飛行でぶっとなできたお勤め先のお屋敷の子らでした。
子らといっても、もうしっかりぼっちゃんとおじょうさまだわ

”はじめて見た、ホントウにほうきで空を飛ぶ人...
でも、なんでひとりで旅立っちゃったんだよ？ 自家用飛行船位出してやったのに”

わあお い、いや～いろいろ突如あっちゃったもんで～っ

”おにい、ずっと絶叫しつつ廊下を走り回ってたんだから～
今日だってお土産僕が渡すってきかないの”
余計な事いうんじゃないよ、と ぼっちゃん
そ、そっかぁホントお嬢様がたには励ましてもらったり、恐怖ゾンビゲームナイトに付き合わされたりしたもんねえ～一言せめて残せたら良かったですなあ...
でも、ワタが集めた落ち葉の山の上に窓からダイブされたときは、溶岩吹き出るかと思ったぞっ

ああ、そうだ

だんなさま・おくさまはお元気？

”ゲンキよ～ママなんて若手俳優のジャンさんにハマッて劇場に通い詰めているし、
パパは旅行先の密林から『おまえに似合うと思って』で、蛍光パープルの果物送ってくるし
でも皆、あの子が魔女だったなんてっていつてよ”

ぐさっ！

...あ、うんそうよね ワタも そのこと隠してたもんね

でも、でっかなお屋敷ずまい 一度は、な 夢だったんだ

魔法もいっぱいちゃんと磨いておぼえて、裏表無く・イチバンほめて／けなしてくる おふたかた
に いつか見てもらおう！て どこかで思ってたかもっ

”あの子が魔女なんなら、魔法使いつてもそんなに怖くないのかな だってさ”

あ、そこは色々な種類や経緯があるんだけどね でも良かったです

そして、お土産ももらいました。

特注で、魔法帽子型のカップケーキ

中身は涙と夕焼けの思い出の味が、1 ダースっ

お嬢様はこれからコンサート、ぼっちゃんもこれからイベということで、お別れ

お父上・お母上にはナイショのお忍び旅（はわわ大丈夫かなっ）

しあわせなこまごまは、ここにもそこにも 全てではないけれど あるんだいねっ

どうかお気をつけてっ&さらに気合はいりましたっ！



きょうは、くぎった魔法ハウスのお部屋のもとのぷるぷるしかく達を、どあを作って繋げていきます。

どんな形や模様、ノブのデザイン、いや引き戸？などもだいじなのですが、繋げるべきところに繋げる ことも、まただいじ

(じつは、ニガテであります...迷路に入って地図を作りつつ出よう の魔法修行でも、未知の植物がはんもしとる絵みたいになってしまうしっ)

ややもすると、ほぼ出口の無い迷宮を作り出してしまうことになります。

いくら魔法ハウスでも、そりゃタイヘンだっ

よ、よし、まずは大きく深呼吸っ

魔法構造物に緊張や・コンランばかり つたっていかんやうに
ばっちり2つをイメージしつつ、そこをつなぐ扉を

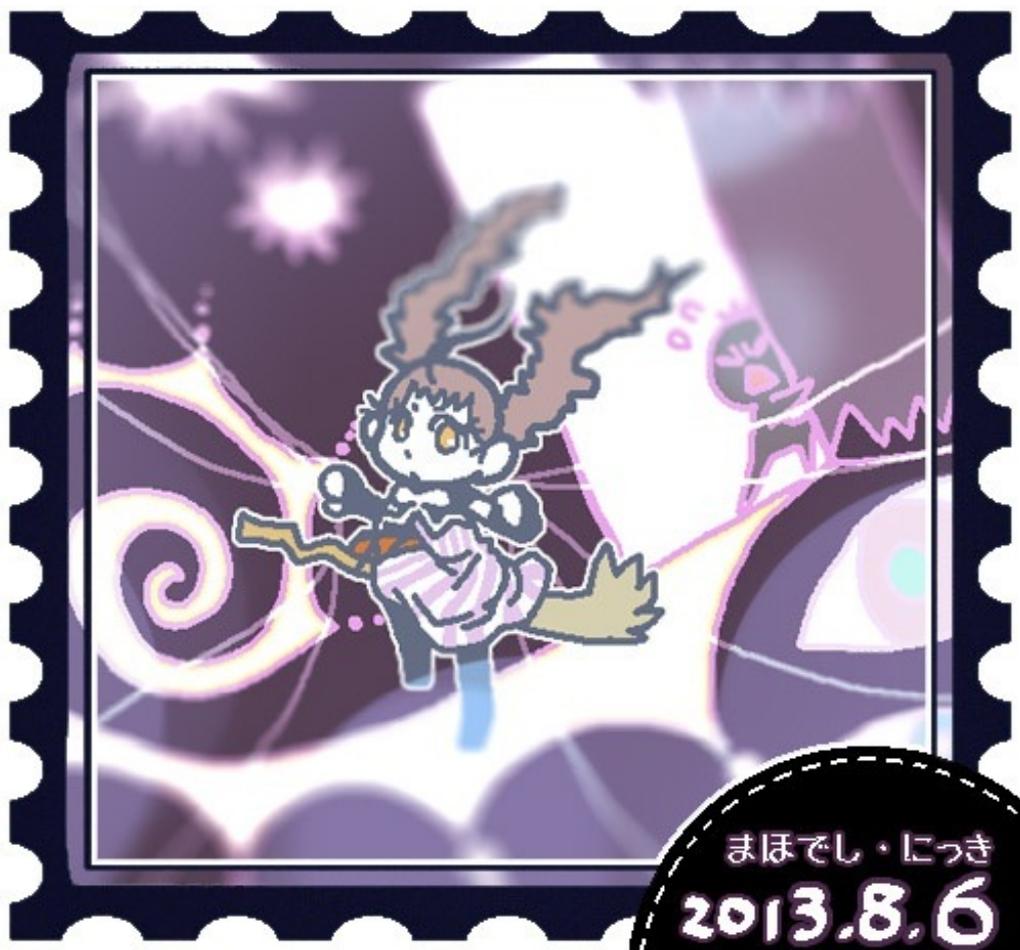
ほうきを背負い、木の質感や模様、ひんやりノブの光り方までぐぐぐっと思ひ浮かべて
ぷるぷるした壁のモトをなぞって行って...

濃紺の、アーチ状の扉が 目の前に出来上がりました。

まずは、よしっ でも

なかから聞いたことあるやうな ないやうな 音がしてきたっ

ズレは想定のうちなので、肝ったますえて ハウスの部分ずつをつなぎに行きます。



濃紺のドアをあけたら、やはりよろよろカオスな空間になっていました。
各予定くうかんのつなぎめからは、魔法のつなぎ糸が指先までつながっています。

すう〜と深い呼吸をした分、意外と気分は落ち着いています。
光と共に糸から、指先から伝わってくる いくつかのもよもよしたかけらたちの感覚

たどって行って、見出して、だんだんハウスの各部分を つないでいこうっ

また濃紺のとびらに戻れるやうに 名前をつけて記憶しつつ、いざもよもよ空間そうじへっ



やっとわが魔法ハウスの各る一むを結び付けましたが、まだまだ ぷるぷるのままです。ちょっとぶつかったりしただけで、大いに変化してしまいさうだっ

でもひとつひとつできていくたびに、どんどんわくわくしてきます。

ワタシのはじめての部屋でハウスが、師匠や弟子仲間や、今思えばお屋敷の人々もあって、だんだん魔法をむすんで つくられていくんだっ

(今考えられる、まだ残るもよもよぽいんつ)

- ・わくわくしすぎて、お部屋空想が あんすとはぷるの気味 冷静に集中！
- ・こんなに強い魔法のかかった空間にいるのは久々で、ちっと押され気味

(ヒュドール先生の学習ダンジョンは もっとひんやり静かな感覚でした)

魔法に飲み込まれてしまわないやうに、しっかり意識を保っていこう！

- ・(これ出来ちゃったら、皆とお別れなんだ)という思いから 出られない無限迷宮を生成してしまわないやうにっ おわりはあるやうでないかもだから！

気持ちが、波です。

うおおおらっしやあああいつてなったり、反対にぐすっ...となったり

魔法を使っていると、自分のなかにいろんな部分がワイワイしているのが はっきりしてきます。

でも、波のやうだからこそ、そのときに必要なものずつ 思う

小さなことかもしれないけれど、ワッには 今 だいじなことなのかもしれない

てなかんじで、こつこつ まだまだ 微調整してゆきますだ。

さあでは、myる一む空間の微調整にはいろっ



魔法ハウスの、大小のもよもよのおそうじ中
がちやっと砂色の扉をあけたら、でっかいすー汰くんがいました。

すー汰くんは里の家の番犬ならぬ番カラスで、ずっとうちの手作り門柱の上で見張っていました。

”ルメや、里に帰ってこんか”
ね～なつかしいね～ えっしゃべった？

”鳥も獣も喋っとるわ 人は気付かんだろうがね
それより、もう ええんじゃないかい”
え ええってなにが

”家ならあるが里に それに、魔法の先生に習ったろ
後はばあちゃんやじいちゃん・とうさんやイベルさんがいるさ
皆 口にゃ出さんが 気にしとるよ ルスタも毎日窓辺で...
家に来れば 皆がいる 意地悪されることもない おれがつついてやるからな”

母さんだけ名前+さん呼びだね、すー汰くん

んん、でもいかんね ワツは作るよ、魔法ハウス
そして、きみはホントウのすー汰くんじゃないね
ワツの、里の家にいたときの 記憶の中のきみなんだわ

兄さん いま りっぱに鳥さんだもんね

弟子仲間やお師匠さんがたとして
ふっ、と、山の魔法使いの里を思い出すことがある
スープのにおいと、夕焼けとか、おおかみの遠吠えとか、窓辺に踊る光とか

ずいぶん遠くに旅してきたんだなあと思う
でも、だからこそがんばれるんよ

だれにもとられない・そんなことよりワクワクがつまってるやうな・でもだれかとつながる・発見し
てく やうな・きついつきは 穏やか～に癒える
すんごいハウス つくるんだっ

くるる、と声を響かせ、すー汰くん（大）は、いぶしたけむりのやうに登っていきました。
しっかり作り上げて、イチバンには里にいてみるかなっ？



魔法はうすの、大小もよもよの おそうじ中

こんどは、いっぱいたくさんの 目が あらわれました。

これも、ワタシのココロにひっかかったままの おさかなのほね みたいなものかな？

違う奴だぞにやあ〜っと 魔女服を眺める目

気にいらんから下らん、と どろりとした目

魔法の民なんてどうせ と じとーっな、目

見てみなよホラ、と まんまるな、目

からかいコトバを秘めての、笑顔の目 かみつくやうな 力押しの目...

どうしてもxは忘れて学んで、ハナウタ歌って ほうきでGO!て 思って ふりきってきたと思っ
たけれど

ドコカでまだ むなしいままだったのかな

今まで、あれこれとコトバを交わして来ました。

よかったことも、いやだったことも あったけど

それが混ざって へんてこなワタがいるし、どちらからも、持っていない考え方がちらっとみえた

よすぎるこでも、わるすぎるこでも ないし、いない

ホントウはどっちであるかが 今の最重要課題じゃない

大勢できょうぼうなパワーをぶおんぶおん振りかざしたって、だれも納得しない じぶんも癒えない

珊瑚色の眼 空色の目 仮面の下の目 めがね釦の下の目 まぐま色の目にも 会ってきたね

ワタはルメ、へっぽこな魔女だ

でもね、いじわるもかくづけもいらぬ あらゆる目の網をびゅんびゅんかわし、

あやしく楽しく へんてこ魔法ハウスでがんがん旅&上達してやるわい！

そこは疲れたいろんな生き物がゆっくり一休みして、奇妙な旅のぷらんとたてたり、お手紙をかいたり 空に行く窓から景色をみたり 冒険を回想したり りらくすフルできてしまったり

ロマンは男子にも女子にも、それぞれひとりずつにあるのだっ

...て後半よくわからない力説しつつなぜかオートひかげんの魔法をかけていたら、目たちはおもしろげに・つまらなそうに 煙のやうに きえていきました。

はふっなんか 集中スパークしすぎて 足元ふらつくカア～



魔法ハウス・各部分での、大小もよもよおそうじ中
頭ぼんやり、足元ふらり...のワタのもとに、なにやら色々現れました。

チッといつつ手を差し出すのは、ココの大鍋をかき混ぜつつ外なるワタを叱咤してた、反対のルメさん

わあいやっほ〜いとイミは無いけどぴょんぴょこ跳ねてるのは、お子のままの仔ルメさん

足によじのぼってきたのは、虫+文旦 みたいな 自然ルメさん

鼻をきかせて歩き回っているのは、わんこルメさん

ふらりなワタを肩にのせて立ち上がるのは、ごっつい巨人ルメさん

あら、里出身で伝説の勇者さんご一行に加わった偉人さん、の空想姿にいさんも！

”ここでまたこわれておわっちゃうの やだな

おねーさんルメさん、いっしょにおうち つくろう”

”こっからまだまだアラあるだろうしな がっはっは”

うう、そりゃそうだけでも～っ

”ここらで失敗しても何か新しい発見をココに現せられれば、まあゼロじゃないけどね
で、へっぽこルメちゃん あんたどうする気？”

あ ㍻㍻反対ルメさんに そう呼ばれとったんかい

いやソレより、ヘンテコなルメめいつの皆さんっ

ぜひとも魔法ハウス作って、いっしょに見に行きましょう

里も 不思議な楽団も ルーツも 勇者さま関連遺跡めぐりも 南の島の植物人さんらも
それに獣人さんがたにも会いたいし、魔域にだって飛んで行こうっ

もしかしたらものすごい魔法使いの犬先生にも会って、サイン貰えるかもしれないし！
あっ握手もしたいナァ もふもふの黒い前足 どんなかんじだろうっ

”こらーっ集中して魔法かけなさいっ”

ルメめいつにハッとしつつ、どんどん大小もよもよを掃除てゆきます！



カスタマイズ自在の、飛行魔法 myハウス作り
まだ少し不安定さがのこっておりますが、ほぼ全体形を組みました。

壁も床も、真っ白な画用紙でできているような質感
ここに、どんな色や形を描いていこうかな？

なんだかタンスの角に足の指をやたらぶつけるからナ、ワタは...
配置や陽・月光のあたりかた、重量分散も気をつげんと、この家 魔女が住む&空も飛ぶし...

きんいろの 空飛ぶ木の種さんは、うでのなかで まんまる
うとうと やわらかな大あくび しております。



（魔法ハウスの、お部屋空想ず 1. 工房）

机の上には、絵や木彫りの道具 引き出しには、手作り用の紙切れや布切れ
小さな織機も端においてあって 新たな魔法服を織ったり縫ったり
時間が分かるという浮石を 時計代わりに
魔具は壁の棚にあらかた置いて、大きな素材も立てて置いて
壁には、里出身のスター魔法使いさんのポスター貼って（今まで貼れんかったっ）
床には、やっぱり里で作られたマジカルじゅうたん、敷きたいナァ～

手のおともに、小さなラジオを置いて「犬先生のとんでもナイト」を聴くのもいいかもっ！



(魔法ハウスの、お部屋空想ず 2. 台所)

まず、ど真ん中に埋め込み型魔法なべ！

据え置き型の丸い大壺鍋だと、支えが折れたり・傾いたときなどあぶないっ
なので、湯船っぽく（※入ってはナクです）なっていたら、きっと煮やすいつ

なべから発散される魔法気体・魔法液体・魔法固体の影響をうけないやうにしかかくバリアして
、ぐるっと料理の道具や素材もしっかり置いて

火力や動力は、風のちからをモトに出来ると、飛行するのに尽きなくてよいやもっ
水はハウスと一緒に飛ぶすこしの草原でろ過したものが使えないかなっ

もし使えなかったら、魔法使いの王様の国のお土産だという、水の尽きない杯を行って買おう
ホンモノだといいナ〜

果物の生る木を植えて育ててくれたら、鳥さんにもワツにも木さん自身にも、素敵な実りにっ
そのぶん、やっぱり清らかな水 だいじなようす。

木、水、火、石、植物、どうぶつ、空気、硝子...

家って、また そのなかにも、自然のものが変化した形で いきてるのだなあ

そんなことを考えつつ、検討をつづけますだ。

お、おなか ぐおげお鳴りだしとるーっ



(魔法ハウスの、お部屋空想ず 3. 寝室)

湖底で魔法修行をしていて、折に触れ景色を眺めていました。
眺めるたびに すう〜とした気分になれたので、寝室は水中風！

寝相がすさまじいので、伸び〜るベッド&かけしきっ
床は思い切って砂か砂のやうなものをざしゃ〜と撒いて、砂浜に

ベッドの脇には眠り・垣間見て・起きた後の夢を糧にするという木を
なんでも、夜になると大きな葉を広げ、夢を吸い上げているときは星型の粒がふるとか
これには、生き物により色々な夢を見せる効果があるさうです。

魔法使いも、ふしぎが糧だものナァ〜

おお、なんだかねむく………なっってはいけない今のワタはっ！
インパクトのつよいモノを思い出しつつ、お部屋空想練り上げ、まだもうすこし？続きます。

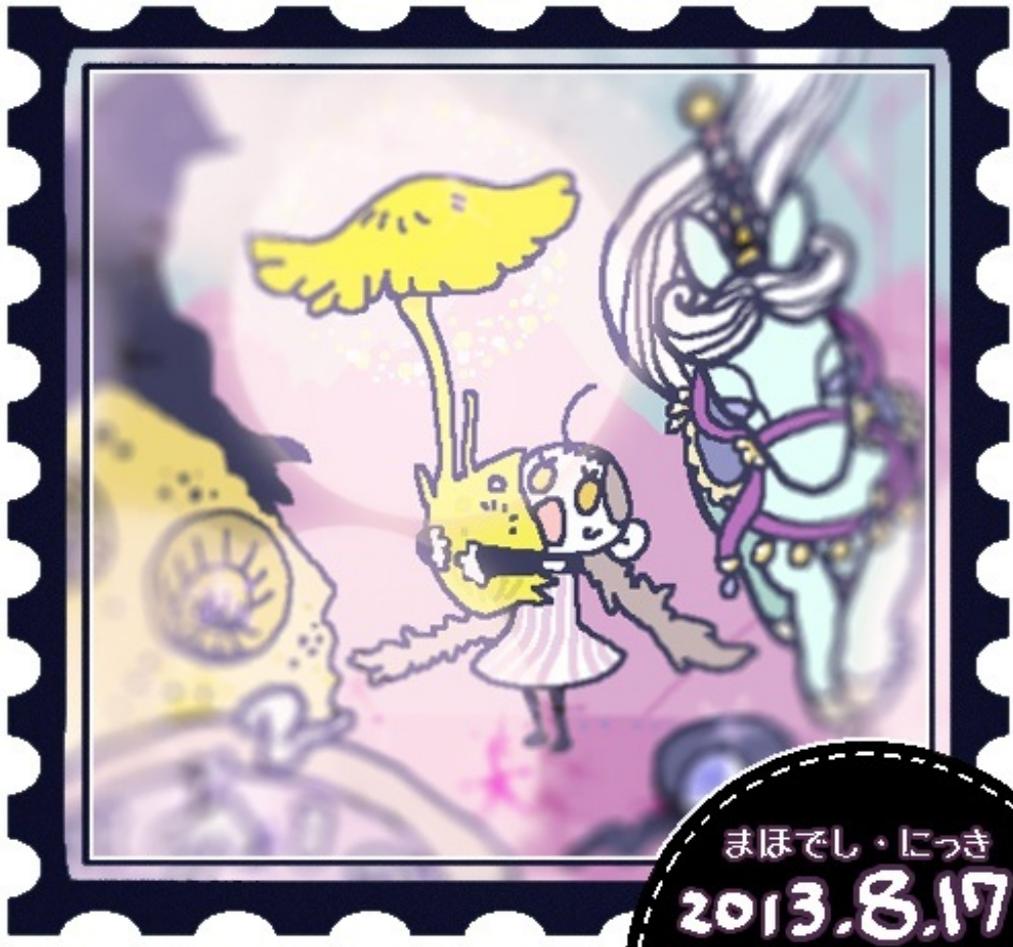


(魔法ハウスのお部屋空想ず 4. ゆったりるーむ)

こんどは、いちめん野原の草花が床をおおう空間が思い浮かんで来ました。
古いけどでっかくって寝そべり心地のすきなソファがあって、
旅でのじぶん土産がズラリとっ

住んでいた湖の地図からは、時折何かの起こす水しぶき
ひといきついでにうたたねしつつ、草のにおいをめいっぱい嗅ぎつつ、
そうそう、旅の空でこんなことあったか とか
これはどこに行ったときのもの? などなど

そんな 旅で充実してゆくお部屋 あったら楽しげだか〜



(魔法ハウスの、ワクワク空想 5. 不思議る一む)

魔法がうまくかけられない まじかるスランプというのが新人魔法使いさんにはあるさうです。日課の動きのやうに魔法を使えるやうになれば、もうできたものなのだけど

ということで、魔法がかれたら補充しやう！の、空想る一むです。

大小の記憶やイメージがもわもわ出てはきえていき、ここで思ったり眺めたり考えたりするうちに、しっかり魔力の泉もまんたんにっ

今は思い出のめりーごーらんの一角白馬さんがカラフルな装飾で舞い、化石やおばけっこがごとごと ふるふる飛び回り、時計からは白い数字達がによろによろぬけだしていきます。高く立ち尽くすのは、いつか見た塔？それとも、細身のじゃいあんと種族物かな？

ゲンマさんやカオン君、お師匠さんずも ごあんないしたいる一むかもっあ、でもヒュドールさんは小さな姿になっていただかないと はいれないかなっ

そんなこんなで、しっかり魔法を一むに色や形をおいていきます。

ん、空飛ぶ木の種さん キンイロ光も眩しく 生長をはじめたみたいっ...



気付いたら、黄色いもこもこの上にいました。

あらら...まだ、なにかほころび魔法がのこっていたんねっ
見上げる、紫の空

自然の中では、めったに全ての音がなくなることはありません。
葉ずれの音、虫や動物の音、街の音、ワッが行動する音、だれかの音...
まちがえなきゃ、それでそれぞれ でっかい星のうえやら、中やら

けれどもここは、音がまったくしません。
いえ、やっぱりまったくは間違いで、し〜〜〜...という、耳鳴りだけ
自分が動いても、何の音もない

まるで、色付の無声映画をみているみたい 視界もちりちり しはじめて
その中で空飛ぶ木さんは、雲が動くぐらいの速さで、葉や芽をぐんぐん のぼしています。
それでも、はやい

きずつけずとおもわずとも きずつけず

ちぢこまってた そのみをやぶり くるくるしながら わくわくするやうに のぼしてく
しばらく きんいろの植物のきらめくちからのみが、なみなみとココにおどっていました。

種さんすんごいね ワタまでよしっ もらえたよ ありがとうねっ

さあ、こんどはワタがしっかり歩くぞッ

魔法ハウスに未だ残るほころび、一つ一つ 結んでいきますぞ！



魔法ハウス めいきんぐ中

ほころびを直しながら歩いていると、ごうごうと光るものがありました。

魔法師匠のダイモさんの、気配

でも姿は全然ちがって、みずから熱と光を

こちらが焦げさうなほどに発する巨鳥が、らんらんとした両眼で見下ろしていました。

さっさて、しっかり見出さないと

一歩ふみだしたら、巨鳥さんが頭をおろしてきて、かぷっとワツの頭をクチバシばさみっ
あだだだ、しかもどあっつい！

ダイモさん、魔法教えてくれて ありがとうございますっ

たくさん「おっ」も「よしっ」も 「こうしていかねば」も「これでよかったんだ」も
いっぱいあるのがわかりましたっ

でも、今ダイモさんに 丸呑みゴックンされるわけにはいかないですぞ

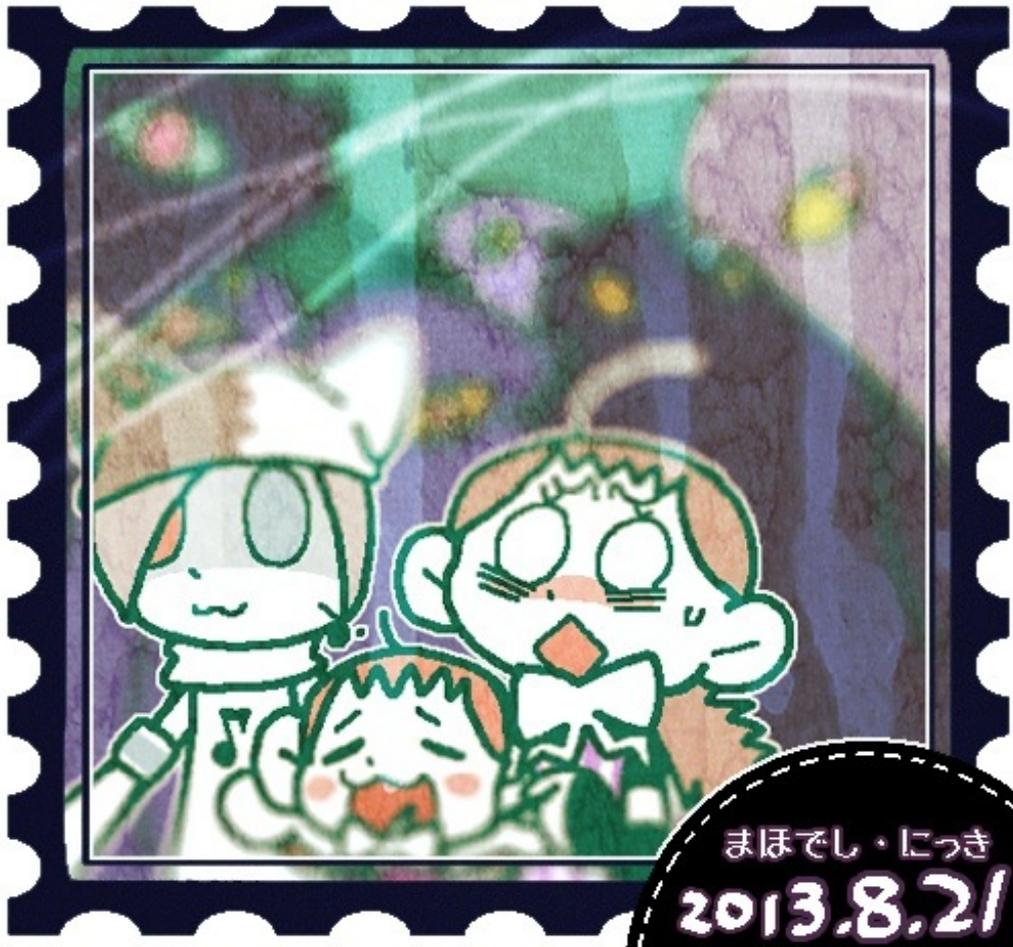
それにダイモさん、主な食べ物は生き物じゃなくて火山性の溶岩（固まったもの）でしたよね？

そのとたん、熱と光でできた鳥は強く長くひく鳴き声を残し、翼を広げる動きをしながら 見えなくなっていきました。

残ったのは、また音のしない 薄暗い空間

う～ん、まだまだ ありがたほころび

歩きつつ、思いつつ、魔法ハウスの仕上げを続けていきます。



魔法ハウス めいきんぐ中

ほころびを直しながら歩いていたら、ふうがわりなカオンくんがいました。
小さなワタも、ほいほい跳ねているっ

”ねえ おねーさんルメさん、しってるー？

ひかるトリさんのとき、ごっついルメさんも お手伝いしてくれてたんだよ”
あらっ ココ内の巨人種族おっちゃん部分なルメさん、時間差なれどありがとうっ！

ちなみに 明滅しているカオンくん（？）、大丈夫かい、なんか黒くてせいたかの人じゃないナニカ達が、空間ぐるり中でざわざわ鳴いているよっ

”ああ、あれは視肉というものです もぎって食べると、美味かつ長生きなのです...”

んん～、もぎる気にはならないかなっ！

しかも、どこへ歩いているのかな...空間がどんどん、縦に伸びていくけど
そういえばカオンくん、獣人ふぁみリーのおサになる・ならないは どうしたの？

”ふふう…僕なんてきっと、伸びる空間を螺旋におりていくしかない尻尾なのです…”

”ルメ 俺達はまぼろしだ のまれぬうちに出ろ”

思い出されてきたのは、大風呂敷の荷を背負って、手を振って遠ざかるカオンくんの姿

そうだ かれは悩んだり・しゅんとしたり・あわわとなりつつ 無意識に歩いてた
そして気付いたら、解らないからこそ／解ったからこそ どこか新しい野にいた

むしろ、ワツかも

ワツは、旅する魔法ハウスをつくりながら、師匠ずや弟子ずとではまた、して旅する決心がついて
いなかったんだ やっと会えた、ホントの馴染みめいつ だから
でも、旅立つといっても、もう会えないのでも ないのに今気付いた
何処の土地でも ダレカやナニカを折に触れ思うし、再会をすることだって あったし

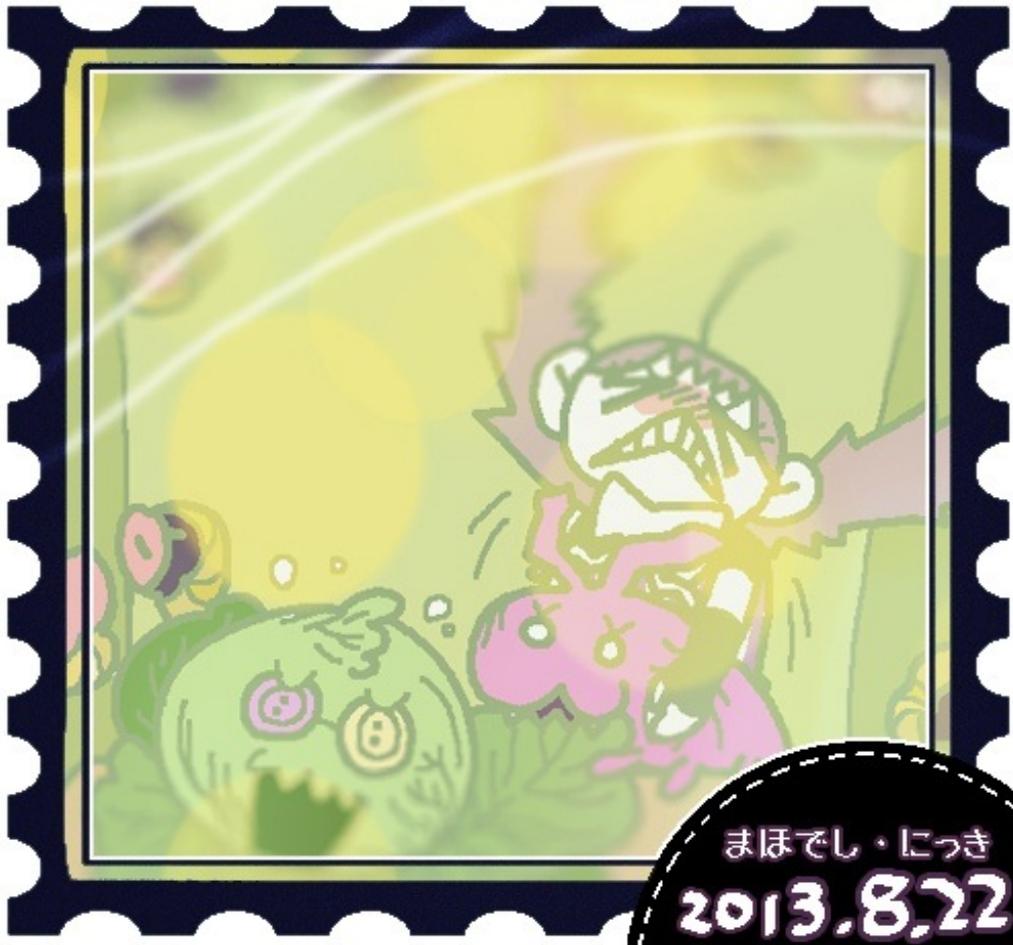
”お～いおねえさんルメさあん、あれな～に～？”

ほ、あれは小舟だ よしお二人さん座って、さぁ漕ぎ出そうっ

…と、真っ黒になった四辺と波間を漕ぎ出したと思ったら、辺りははじめの紫の空に戻っていま
した。

風音も、しない

魔法ハウスのほころび直し、まだまんだ つづきます。



魔法ハウスの、めいきんぐ中

ほころびを直しながら歩いていたら、どでっかいきゃべつ がいました。
ああおとした、清らかな水のたまをすべらせる じつに美味しげなきゃべつです。

こんだけデカイとしばらくご飯作りにこまらないね
生でドレッシングやソースもよし、お味噌汁にも、カツの下にも、ろーるして煮るのも...

”おひさ～ですにーっルメさあん！ワガハイですよお～”

ん、その声は まほでし仲間の植物人・ゲンマさん？
あれま よく見たら例のボタン型眼鏡 してるねえ

でも、このきゃべつ・ゲンマさんも ほころびのまぼろし なんだね

よお～く周囲をみまわすと、ピンク色の これまたまるまるとした生物群

あああ、このピンクのはいまわる群れ どうも私に似ているカ

こらこら、でもこれはゲンマさんだよ！かじったらだめっ

というところで、なにか引っかかりました。

ワツはさっき おいしいきゃべつ料理 想像した

幻のゲンマさんは、幻の光と水を糧に、ぐんぐんおおきくなった

ココのルメさんずは、ただ無心に たべてる おおきくなりたくて

ゲンマさんは、もっと葉を広げたいから、食べられたくない

ココのルメさんずは、もっと栄養を溜めて変化し、空を飛びたいから 食べられたくない

ワツもモチロン、怪獣物のお腹を満たすごはんとかには なりたくない

みるみるうちに、きゃべつ・ゲンマさんはピンクの生物群に覆われました。

でも、ころん、ころんと いっぴきずつ ついには皆 お昼寝

”ダイジョウブにできてるんですに～ この赤さんたち 要る分だけを食べマスから

油断すると まるっとですケドねっ

おまけにワガハイ 規格外 どでっかすぎて売れません いずれ腐っちゃうデショウ

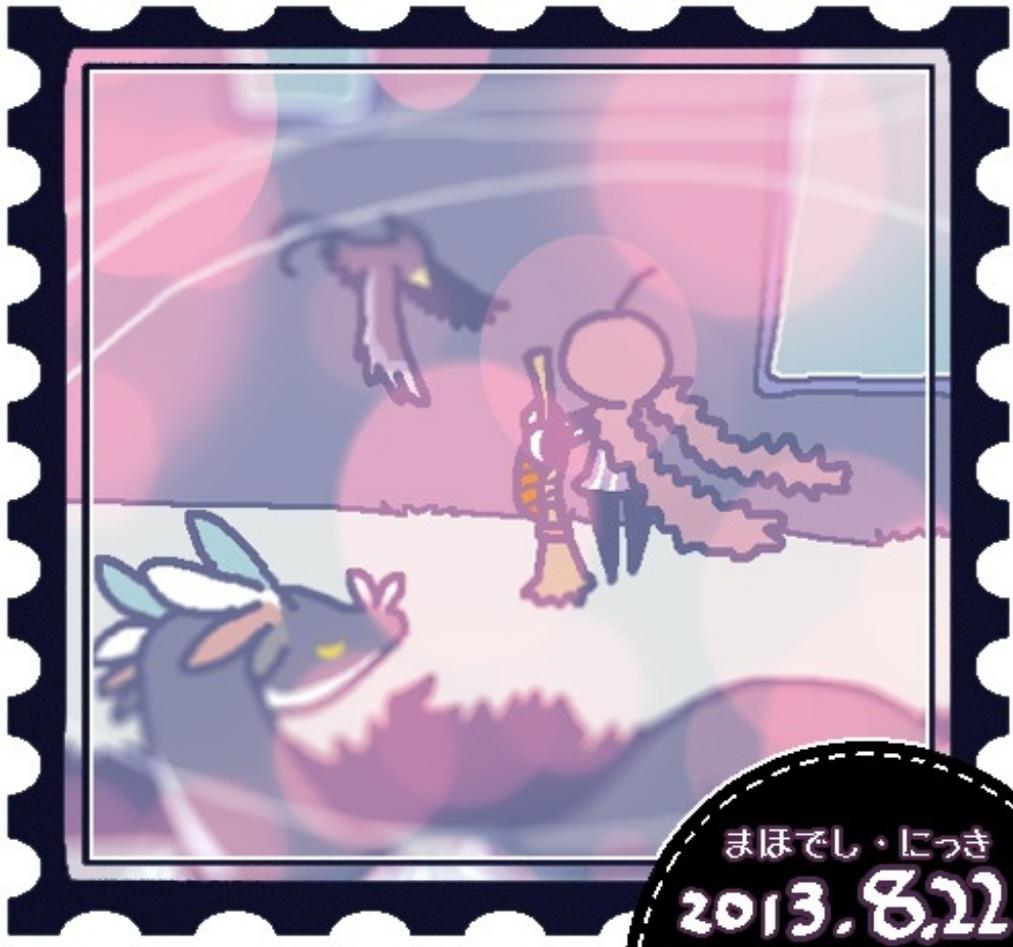
ルメさんのサラダぶんだって、しっかりありますに～

でもでも、またワガハイの仲間 埋めといてオネガイねっですじゃっ”

ぐふふふっというふうがわりな笑いを残し、きゃべつ・ゲンマさんは消えていきました。

また無音の、紫の空

ほころびをなおしつつ、歩きつつ、しっかりつくって 早く師匠ず・弟子仲間にご挨拶 したい
ものだから～



魔法ハウスの、めいきんぐ中

ほころびを直して歩いていたら、夜空色の鳥さんと ながい大蛇さんがいる水辺に来ました。
(しかし どこからか やけに広がっている様な...?)

私が知っている夜空色の小鳥さんといへば、鳥に姿がかわった 兄さん
空飛ぶ木さんの崩壊と それが変わった 空飛ぶくらげさんずの群れを見た時、
そういへば便りできていた...かな

にいさんの・まぼろしさん、どうしたの？

しかし懐かしい声はせず、ぴよぴよちゅんちゅんちゅいーとさえずっています。
あれ、にんげんのことば 出なくなったのかな

ひび割れに水が通ったやうな幾筋もの川に浸った大蛇さん、深海のやうな瞳で じっと

うん、じゃあいいや 腕にとまって休んでね といったら とまって羽繕いかいしっ
こちらのことは わかったんだね

本当のにいさんも、いつか こうなるかもしれない
でも群れはいず、夜空色の小鳥は今のところ かれ一羽
きっとそれでも また新たなすみかを見出していくんだね

大昔よく 動物とことばがつうじて いっしょにお話できたらって思っていた
でも、見ていればわかるものなのかも

ふと見渡すと、大蛇さんが 静かにあくび 散り散りの星を 吐いている
小鳥兄さんは全身ふわっと羽毛を立たせ、風を起こして羽ばたいていきました。

どの星にいるかはもう見えないけども、兄さん元気でね ワタシも、もうひとふんばるよっ
ヒュドールさんも、ありがとうございました 水の楼閣、きっとまた参ります

そうコトで呟くと、星々の光の残照を残しつつ また無音の 紫の空に
それにしても、ワタシは へっぽこ脱出 できとるのかなっ？



魔法ハウスの、めいきんぐ中

ほころびをあらかた なんとかしてきたら、反対のルメさんがいました。
ワツのヨヨのどこかの魔法の大鍋を、ワツと反対のことをいいつつ かき混ぜていた子です。

”あたしなら、ほころびなんて即縫い合わせてたところだがね”
い、いや、しかしさあ～

反対のルメさん、ぷいっと横を向きました。
腰にてをあて、ブーツをトントントンとっ

”あたしなら、もっと上手く立ち回れる 反対のルメなんか嫌いだって、思った”
おおっと、いきなりの衝撃発言ですじゃっ

”あたしをここから出せ 反対のルメと代われって
でも、そうでもなかった

自分の中のどうせ、でも、あ～あって ゼンブじゃない、でもあくたでもない

記憶は幸か不幸か残って・忘れて、じぶんを叩きたくなったり、さすりたくなったり

それでも、いいのね ほげほげのあたしとココ内外で来たから なんだね
そう思ったら、広がって・ひといきついで・楽しいことがあったのに気付いた

やっと、ちいさくグルグルしてたぎちぎちのネジが、はずれた気分”

おああ、反対のルメさん ぐおおっしていたんだね～

ワタシも最初は、コワさもあったんよ 反対のルメさん いつか大暴れして、ドイヒーなことにならん
かしらって ワタシそんなこと思ってないよって

ワタシらちいさいし、知らないこといっぱいだし、それでウロウロするけど
これからはツイン+αで、空飛ぶ魔法ハウスで、ココの外と内とで 冒険旅しようねっ

忘れずにまたありがとうって思って がんばるぞっと思って ホワンともしてこう
そうだからこそ、今まで・今・コレから だからこそ に してこう

”ソレはどうでもいいけどサ、反対のあたしから出た糸、ほら お家縫ってるよ”

見上げると、紫の空に まっさらな魔法ハウスが 縫い合わされてゆくところでした。



いつの間にか眠り込んでいたようです。

ああ、まどから まぶしい あったかい ちょうちよとんでるし

...え、蝶？

アレッと半身を起こし、柔らかな草に手をついて見回すと

こじんまりとした口の中に、白木の小さな机、空っぽのたな、長い台も兼ねる また たな、赤地に
白いモコモコの柄のごみばこに、チョコとクッションが乗った ベッド

ちょっと引っ張ったら、わが寝相700-仕様で のび~るのびる 離すと元通りっ

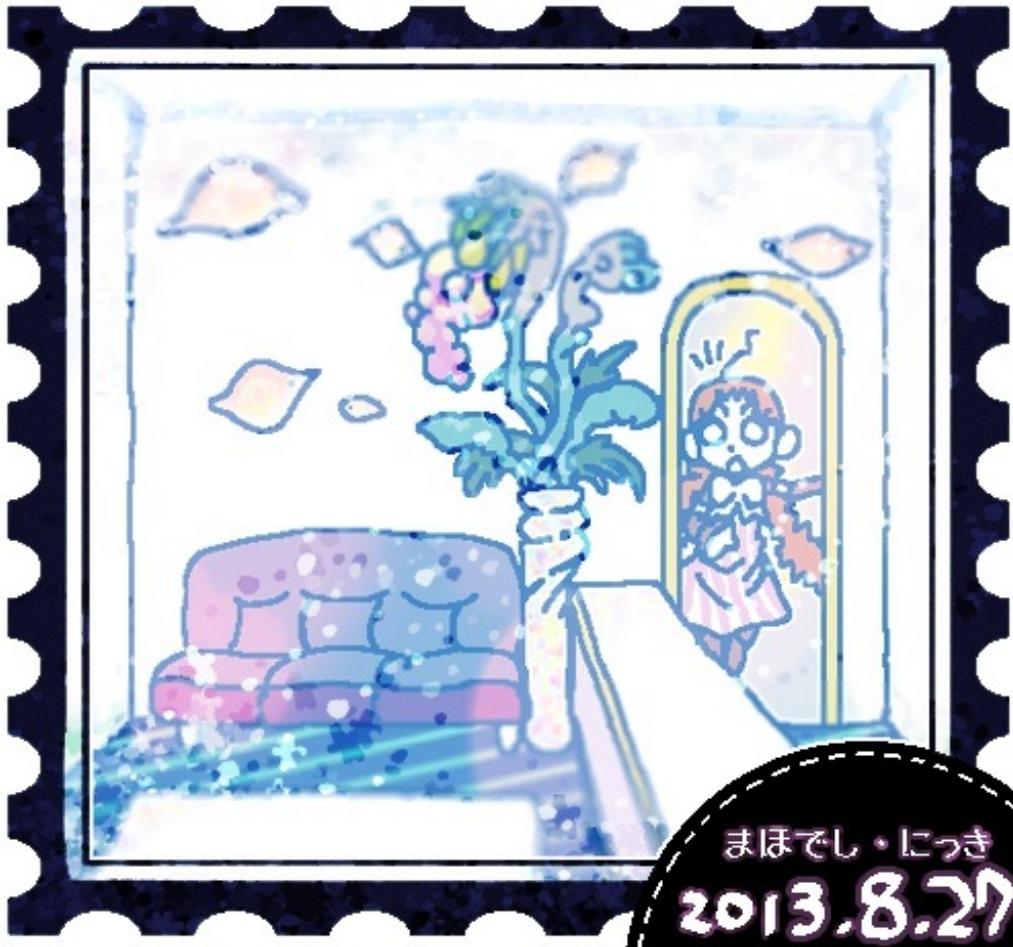
床は野原、天井は動く青空 部屋の隅からは きんいろの光が照らしています。

そこには、つきぬけて伸びた、空飛ぶ木さんの植わった姿
耳をあてると、いるかおのやうな声で なにか話しているっ

ふらふらと 立ち上がり、2つあるうちの 藍色のドアの前へ

ワッ、夢でもみているのだから.....あだだほっぺたいっ

そんなこんなで、なにやら魔法ハウス、できた？できたのかな？



やっこさ でけた、魔法ハウス
の 藍色のドアを開けると、そこはお店っぽい空間でした。

きらきら 水のやうな硝子につつまれひんやりななかに 葉のやうなさかなのむれ
白いショーケース兼カウンターがあって、まだまっさらがワッと

お客さま部分には柔らかしっかりなソファに、低いテーブル
ぶどうのやうな花 床とつながる背の高い花瓶で ゆれています。
こんなにきらびやかでは私がド緊張してしまうし、あとで内装をほのぼの商店風にしやうっ

ぷくぽこ登っていく小さな泡を見ていると、湖底で魔法特訓していた日々が思い出されます。
なんかヘンテコ、でも
はじめての魔法師弟学習でいず はじめての切磋琢磨？with友達でいず 自ごはん旅でいず
そしてはじめての魔法ハウス作りでいず！

そこにこれから、「空飛ぶ魔法ハウス+空飛ぶ魔法お店でいず」が はじまるんだっ

...のまえに、塩わかめおにぎりやお漬物やお味噌汁等分担で作リ 一同もぐもぐタイムにします。
。そしてその前に、報告だっ！



やっどこさできた、魔法ハウス

こじんまりではありますが、ワッの初めてののるーむ&お店部分も 形作られていました。

そういへば、の 目覚めるまでの 夢の中

”おめでとう、ルメ”

しゅーしゅーしゃわしゃわ、恒星？流星？のやうな頭をした人が、黒い空の下立っていました。なだらかな地平も黒で、キンイロに輝きながら伸びていく木の芽が 巨大に投影されています。

そんでもって、ワッはルメです あなたはどなたですか？

”すまない、今私に名前はないのだよ

しかし、あの なきむしっこのきみが こんなにおおきくなったんだねえ”

ええと ではスパークリングさん、ワッのことをごぞんじなのですか？

”ああ、知っているよ 魔法の里の子らのことは歴代すべて

それでね、私には役目があって それで来た

それは、巣立つ新人魔法使い達に、彼等の名の2つ目の意味を教えること”

ほわ？

”きみにとってのルメの第一の意味は、きみであること

そして第2の意味は、光 だよ”

ああ、それは聞いたことあるかも

めったに教えてはいけなくて、いつか必ず知って、魔法の力がより増す 糸となるもの
え～、うちにもあったんだなあ！

...といううちに、星のひとは では、と きらめく軌道を残して 飛び去りました。

にいさんも、それで鳥に？

歴代みんな、してた？

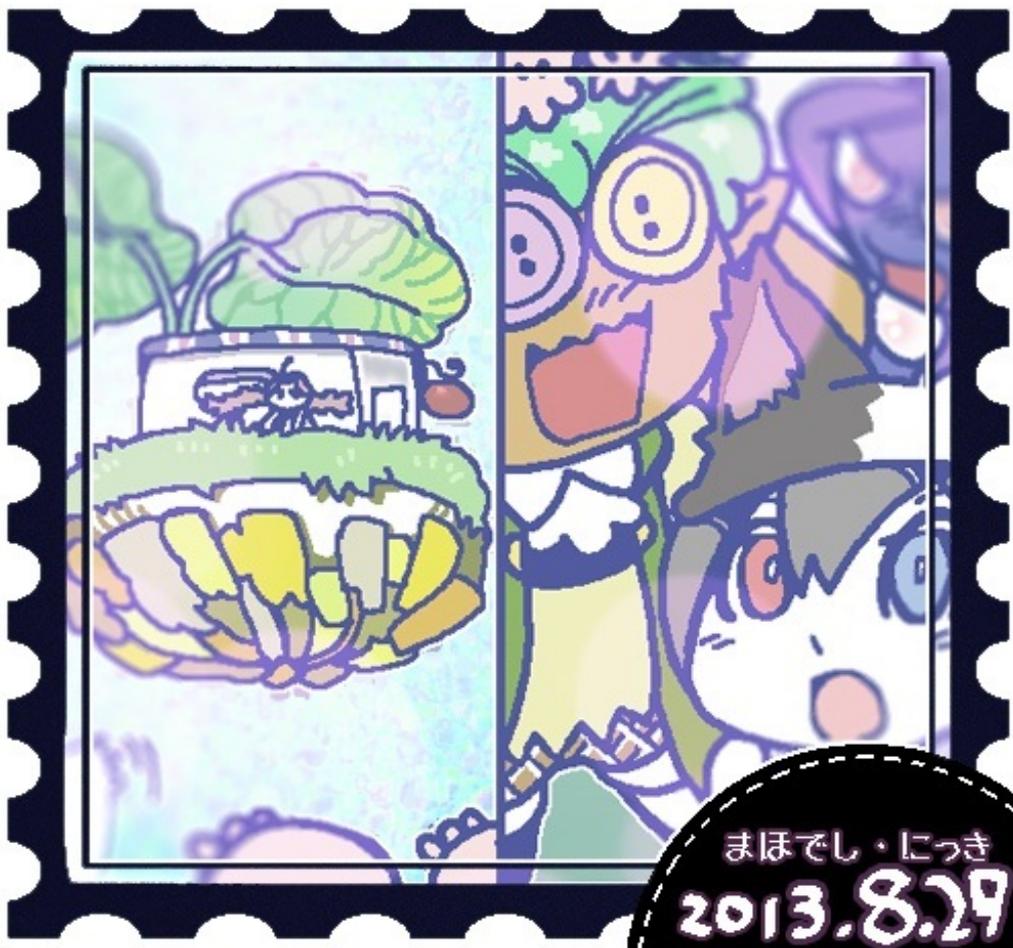
わたしの名の第2の意味は 光（古い魔法語表記でかくとgdlumen） なんだ

ん 星？

里出身で、勇者ご一行に同行されたという魔法使いさん、最後は鳥馬アスタラルドと共に星にな
ったっていうけど いやいや、まさかねえ

でもなんだかココに「よし、旅るぞっ」ゴコロがじわじわわいてきつつ、

師匠ず・でしず（カオン君も来ていました）まじえて ごはん後の魔力みにてすと中です！



”帰るなり獣だんごの中心でびっくりしたよ...

ちゃんと獣化ができるようになったのは家族に見せたんだけど、ちょうど2番目のあにきと5～7番目のねえさん達が帰ってきて、皆ワイワイ呑みだすし

結局、当面は情が厚くて腕っぷしのたつ2番目あにきがオサで、

いま ローホと雑談できるのは僕だけということで 人生相談役になりました”

でもオサはだんだん交代をしていって、いつかカオンくんもするらしいです。

20余人家族のマッサージ師もしていて、熊じいちゃんは走れると大喜びだそうなん

”ワガハは今度カッコイイ船に乗せてもらうんですに！”

ゲンマさんは、魔法修行はしつつ、未知の近種 植物人の島へ研究旅行へ行って来るさうです。

それまでの船が眼光鋭くライオンのやうなヒゲで、真っ赤なコートのおじさんを船長とするものというけど、ソレ大丈夫かな

ヒュドールさんはふしぎな湖底の洞窟の 石碑の中の楼閣で穏やかに日々黙想すると言い、ダイモさんはとても心配げです。

”おいおいルメ、お前ももう旅立つの？

もっと特訓しないで飛行旅 ホントウにいけるか？

メンテナンスとか、緊急どうにかしないととか、着陸・離陸とかよ...”

私もチト今になって大丈夫かな？気味ですが、ソコは根性でまいりますっ

あ でもあれ

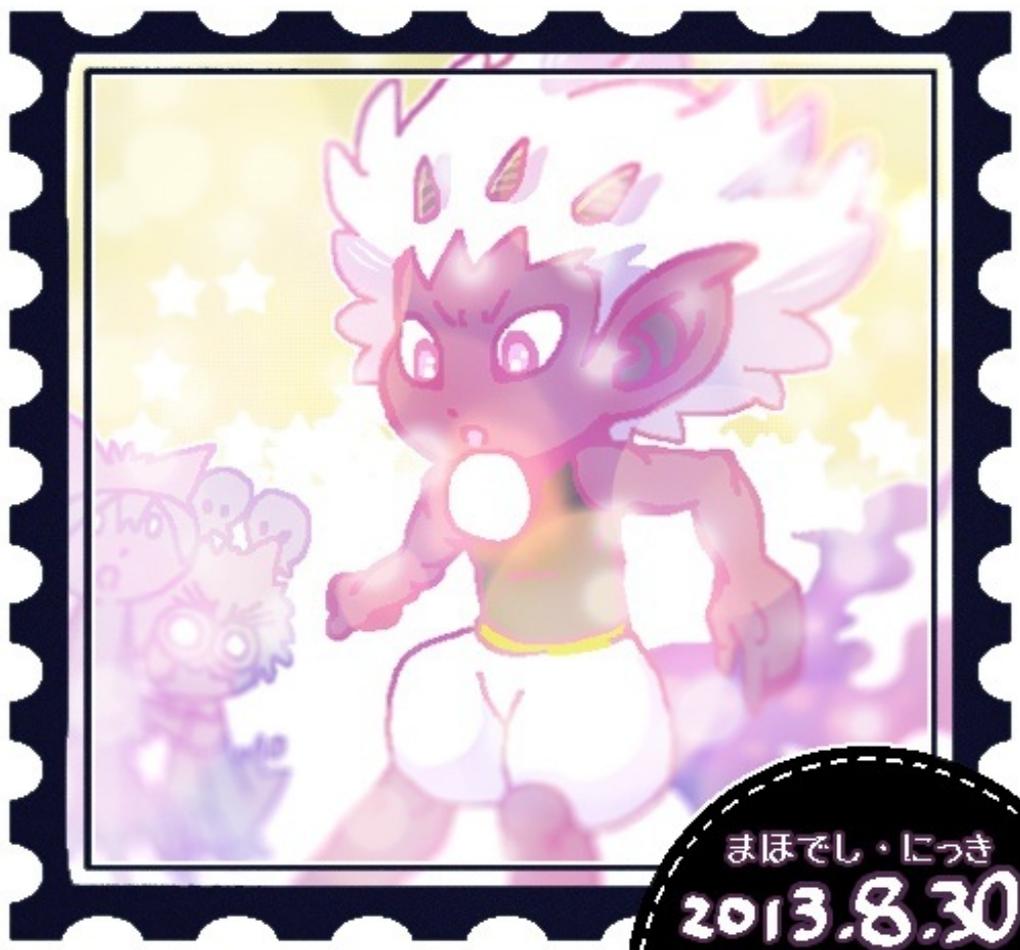
着陸の仕方が分からないまま、離陸が始まっておりますが.....ハッ！

ルメさんはやくハウスに！とか アハハルメさんらしいですに一とか かけ声もらいつつ、

やっとのことで ぼっこり浮き始めた地面にしがみつき・よじのぼり

つち付き野菜のやうになりつつ手を振りました。

ああ、モットしっかり颯爽と旅立ちたかったァ～



ダイモだ。

おおいルメヲット待てーっと着陸・離陸訓練も踏まえて呼んだが、魔法ハウスは気付かず飛んでいった。

”私は生徒・ゲンマを見送ってしばらく眠る
おまえはどうするのだ ダイモ
どうやらここにも変化が起きているようだが”

あ、変化とな？

湖底洞窟の草の原を見回しても 特に変化という変化には気付かない。
ではと 水面をながめていると...

そこには3つ角の、おおきな耳と炎の尾をもつ子供が映っていた。

お、新しい弟子候補かな

・・・
・・・
・・・

え、俺か？

”閉じ込められた瓶のなかで弱っていた魔力が、弟子なるルメの成長で戻ってきたのだろう”

ほうほう ナルホドな...では俺も、旅に出る

俺を瓶にとじこめたドコゾのすっぽこ冒険者に、再戦そして勝利を誓いにな！

”まあ、ほどほどにな

あ そうそう ゲンマもゲンキに旅立ったよ 先ほど... では、また”

おー、と意味はないが決めた動きで歩き出したら、おやっ

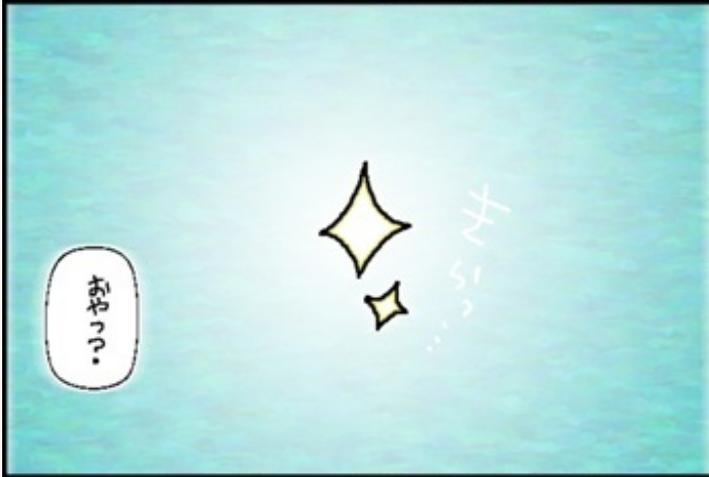
上方、湖のほうの水面を慌てて飛んでいる長いのは ルメの忘れ物か？

途中まで同行のカオンと ぽか〜んしつつも、新たな一步を重ねる。

魔物も魔女も獣人も 植物人もへびも

刻々と新たな旅のなかをゆく。

...俺も一回、魔域に帰ってみようかな？





まほでし・につき ④

<http://p.booklog.jp/book/76079>

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

※日付の表記が所々とんでいるのは、日曜日にupした絵を省いたためです。

後にそちらも、本にまとめます！

...

まほでし・につき またこんど巻です。

女子キャラクターを描くのがうまくなく、でも描きたい事や記憶、イメージはあり...
ということで、へんてこっ子の成長？お話になりました。

多少ズレてたって、弱気だって、出来ないことが多くたって、
なにくそハート&ありがとう！ハート&もさくハートで
れつつふあんたじっくっ

それでは、本当にありがとうございます、そして新たなる 365へ。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76079>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76079>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ